

「山口市地域福祉計画・山口市地域福祉活動計画」を策定するための地域福祉アンケート調査結果報告書(詳細版)

1.はじめに

本地域福祉アンケートは、次期「山口市地域福祉計画・山口市地域福祉活動計画」の策定にあたり、市民に対して、日常生活や地域に関するごく身近なことからや、今大切なこと、必要なことについて率直なご意見をうかがい、今後の計画策定過程において基礎資料とすることを目的として、実施されました。

山口市地域福祉計画・山口市地域福祉活動計画の策定にあたって、これまで4回の社会調査が実施され、本調査は5回目となります。過去の調査は、旧山口市の『「山口市地域福祉計画」作成のためのアンケート』(平成14(2002)年12月実施。以下、2002年調査と略称)、2005年3月の山口市、小郡町、秋穂町、阿知須町、徳地町の合併後の『「山口市地域福祉計画」作成のためのアンケート』(平成20(2008)年2月～3月に実施。以下、2008年調査)、2010年1月の旧阿東町との合併後の『「山口市地域福祉計画・山口市地域福祉活動計画」を策定するための地域福祉アンケート』(平成25(2013)年2月～3月に実施。以下、2013年調査)、『「山口市地域福祉計画・山口市地域福祉活動計画」を策定するための地域福祉アンケート』(平成29(2017)年2月28日～3月25日に実施。以下、2017年調査)です。

今回使用した調査票も、2013年調査、2017年調査と比較できるように、質問項目は基本的に共通としましたが、2020年初頭から続く、新型コロナウイルス感染症の拡大は、市民の健康や暮らしに影響し、社会生活へ影響を及ぼしていることから、この間の暮らし向きの評価、感染症拡大に伴う不安感や悩み、それらの相談先を確認することとしました。

2.調査の概要

『「山口市地域福祉計画・山口市地域福祉活動計画」を策定するための地域福祉アンケート』(以下、2022年調査)は、次のように実施されました。

実施時期	2022年2月28日～3月15日
対象者	18歳以上の市民
対象者抽出法	市内21地域別に年齢を9段階区分として無作為抽出
調査方法	郵送法(配付回収を郵送で実施)
調査対象者数	4005票
回収数	1636票
回収率	40.8%

今回の2022年調査の回収率は40.8%でした。過去の回収率と比較しても(2002年調査43.1%、2008年調査40.5%、2013年調査43.3%、2017年調査41.4%)、ほとんど変化はなく、郵送法による調査としては決して低い回収率ではありません。

しかし、回収率が半数弱であることは、性別(女性58.0%、男性42.0%)、年齢層別(60歳以上58.8%)にやや偏りをもたらしています。このため、結果の解釈には一定の注意が必要です。

(本報告書は、集計分析を宮崎真弥、山田真理子(九州大学大学院人間環境学府)、片野坂悠太、安本祥子(九州大学文学部)が担当し、高野か執筆、監修を行いました。)

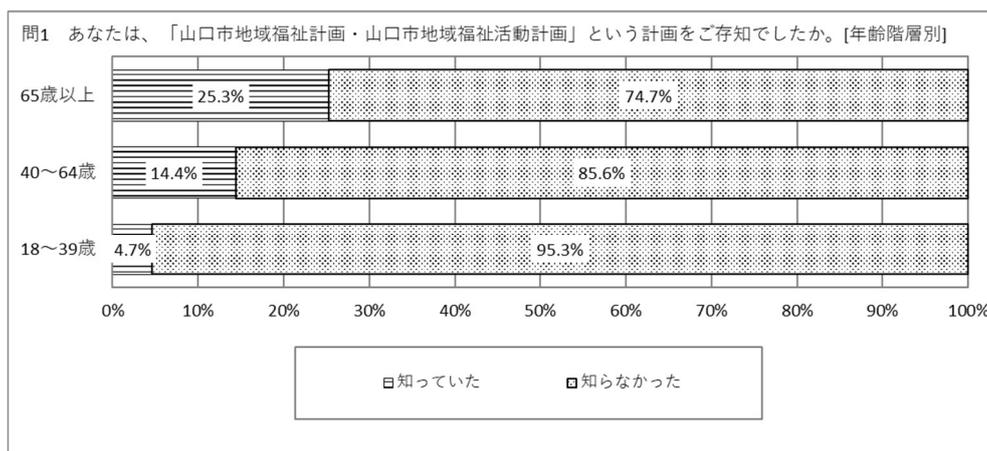
3. 単純集計結果

問1 あなたは「山口市地域福祉計画・山口市地域福祉活動計画」という計画をご存知でしたか。

地域福祉計画の認知			
	度数	有効パーセント	累積パーセント
知っていた	280	18.4	18.4
知らなかった	1243	81.6	100.0
合計	1523	100.0	
無回答	113		
合計	1636		

・回答者の 81.6%が「山口市地域福祉計画・山口市地域福祉活動計画」を「知らなかった」と回答しており、「知っていた」を選択した回答者は 18.4%に留まりました。

・今回の認知度(18.4%)は、2008 年調査(18.6%)、2013 年調査(18.9%)、2017 年調査(17.4%)と比較しても、ほとんど変化はありませんでした。



P<.01

・年齢階層別では、65歳以上の高齢層(25.3%)と比較して、40～64歳の壮年層(14.4%)や18～39歳の青年層(4.7%)の「山口市地域福祉計画・山口市地域福祉活動計画」の認知度は低いことがわかりました。

・高齢層の認知度の高さは、高齢層は担い手として地域福祉活動に参加する機会に加え、地域福祉活動によって生活を支えてもらう機会も他の世代と比較すると多いことから、こうした結果になったとも考えられます。

問2 あなたの性別は、どちらですか。

性別			
	度数	有効パーセント	累積パーセント
男性	686	42.0	42.0
女性	947	58.0	100.0
合計	1633	100.0	
無回答	3		
合計	1636		

・回答者のうち 42.0%が男性、58.0%が女性でした。男性の回答者と比較して女性の回答者の方がやや多いことがわかりました。

問3 あなたの年齢をご記入ください。(令和4年3月1日現在)

年齢_10歳区分			
	度数	有効パーセント	累積パーセント
10代	26	1.6	1.6
20代	69	4.2	5.8
30代	131	8.1	13.9
40代	213	13.1	27.0
50代	230	14.1	41.1
60代	329	20.2	61.4
70代	372	22.9	84.3
80代	218	13.4	97.7
90代以上	38	2.3	100.0
合計	1626	100.0	
無回答	10		
合計	1636		

・年齢を確認すると、70代が最も多く 22.9%を占めており、60代の 20.2%、50代の 14.1%が続いて多く回答していました。山口市民の実際の年齢分布よりも高齢層の割合が高くなっています。

問4 あなたの職業は、次のうちのどれですか。兼業されている方は、主なもの2つに○印をつけ、そのうち「主な職業」の番号をご記入ください。

職業		
会社員	度数	268
	%	16.6
自営業	度数	93
	%	5.8
農林水産業	度数	52
	%	3.2
団体職員	度数	52
	%	3.2
専門職（医者、教員など資格や免許の必要な専門的な仕事）	度数	110
	%	6.8
公務員（4、5を除く）	度数	82
	%	5.1
パート勤務	度数	211
	%	13.1
学生	度数	48
	%	3.0
専業主婦	度数	350
	%	21.7
現在収入のある仕事に就いていない方	度数	339
	%	21.0
その他	度数	42
	%	2.6

・回答者の職業を確認すると、「専業主婦」(21.7%)と、「現在収入のある仕事に就いていない方」(21.0%)の割合が高く、「会社員」の 16.6%、「パート勤務」の 13.1%がそれに続く結果となりました。

主な職業		
	度数	有効パーセン ト
会社員	2	18.2
自営業	1	9.1
農林水産業	1	9.1
団体職員	1	9.1
パート勤務	2	18.2
専業主婦	4	36.4
合計	11	100.0
非該当	1586	
無回答	39	
合計	1625	
合計	1636	

・兼業されている方に「主な職業」を聞いたところ、「専業主婦」が最も多く 36.4%、「会社員」と「パート勤務」がともに 18.2%となりました。ただし、回答者数が少ないため、あくまで参考程度としてみておく必要があります。

問5 あなたのお住まいの地域はどちらですか。

住んでいる地域		
	度数	有効パーセント
大殿	66	4.1
白石	90	5.5
湯田	115	7.1
仁保	35	2.2
小鯖	39	2.4
大内	195	12.0
宮野	120	7.4
吉敷	106	6.5
平川	109	6.7
大蔵	82	5.1
陶	20	1.2
鑄銭司	34	2.1
名田島	15	0.9
秋穂二島	28	1.7
嘉川	66	4.1
佐山	32	2.0
小郡	186	11.5
秋穂	59	3.6
阿知須	85	5.2
出雲	32	2.0
島地	20	1.2
八坂	11	0.7
柚野	3	0.2
串	6	0.4
篠生	9	0.6
生雲	12	0.7
地福	15	0.9
徳佐	28	1.7
嘉年	4	0.2
合計	1622	100.0
無回答	14	
合計	1636	

・居住地を確認したところ、「大内」が最も多く 12.0%を占めることがわかりました。さらに、「小郡」が 11.5%、「宮野」が 7.4%、「湯田」が 7.1%、「平川」が 6.7%、「吉敷」が 6.5%で続く結果となりました。

問6 あなたのお住まいは次のどれになりますか。

居住形態			
	度数	有効パーセント	累積パーセント
一戸建て（持ち家）	1258	77.7	77.7
一戸建て（借家）	55	3.4	81.0
マンション（持ち家）	80	4.9	86.0
マンション・アパート（借家）	203	12.5	98.5
その他	24	1.5	100.0
合計	1620	100.0	
無回答	16		
合計	1636		

・居住形態について確認したところ、「一戸建て(持ち家)」が最も多く 77.7%であることがわかりました。それに「マンション・アパート(借家)」の 12.5%、「マンション(持ち家)」の 4.9%が続く結果となりました。

問7 あなたは、山口市でずっと暮らしてこられましたか。※この間の山口市は、現在の山口市として

居住歴			
	度数	有効パーセント	累積パーセント
山口市生まれで、ずっと山口市で暮らしている	448	27.8	27.8
山口市外の生まれだが、子どもの時からずっと住んでいる	75	4.7	32.5
山口市外の生まれだが、転居してきた	467	29.0	61.5
山口市外の生まれだが、結婚をきっかけに転居してきた	275	17.1	78.6
学校や就職で2年以上山口市外に出たが、山口市に戻ってきた（Uターンしてきた）	289	18.0	96.6
その他	55	3.4	100.0
合計	1609	100.0	
無回答	27		
合計	1636		

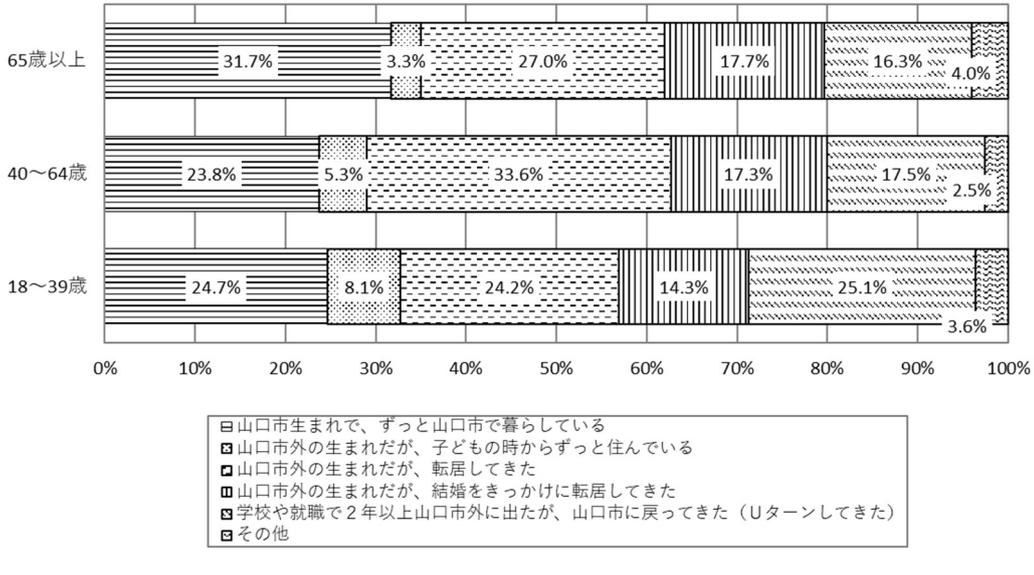
お答え下さい。例:旧阿東町から旧山口市に転居した場合、回答は「1」になります。

・居住歴を尋ねたところ、「山口市外の生まれだが、転居してきた」を選択した回答者が最も多く 3 割弱 (29.0%)であることがわかりました。それに次いで「山口市生まれで、ずっと山口市で暮らしている」を選択した回答者(27.8%)が多くなりました。また、「学校や就職で2年以上山口市外に出たが、山口市に戻ってきた(Uターンしてきた)」人が 2 割弱(18.0%)いることもわかりました。

・定住層(「山口市生まれで、ずっと山口市で暮らしている」、「山口市外の生まれだが、子どもの時からずっと住んでいる」)の割合は合わせて 3 割強(32.5%)で、Uターン層は 2 割弱(18.0%)であり、あわせて 5 割(50.5%)程度でした。一方で、来住層(「山口市外の生まれだが、転居してきた」、「山口市外の生まれだが、結婚をきっかけに転居してきた」)の割合は 5 割弱(46.1%)となっています。2017 年調査(Uターン層を含む定住層 49.1%、来住層 47.7%)と比較しても大きな変化はありませんでした。

問7 あなたは、山口市でずっと暮らしてこられましたか。※この間の山口市は、現在の山口市としてお答え下さい。例：旧阿東町から旧山口市に転居した場合、回答は「1」になります。

[年齢階層別]



P<.01

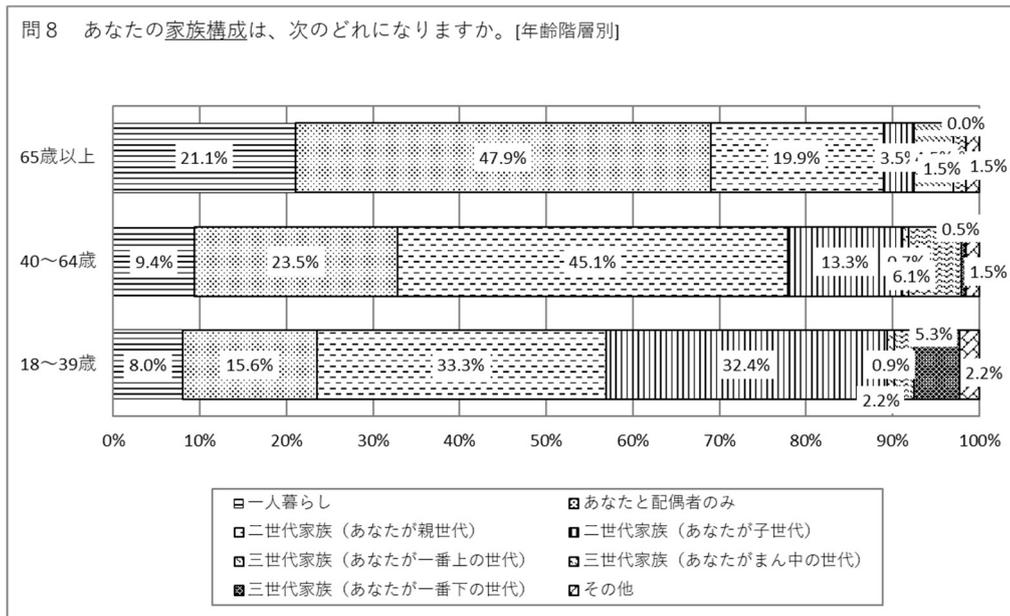
・年齢階層別では、高齢層(31.7%)が壮年層(23.8%)や青年層(24.7%)と比較して、「山口市生まれで、ずっと山口市で暮らしている」人の割合が大きくなりました。壮年層の定住層の割合(29.1%)は、高齢層(35.0%)や青年層(32.8%)と比較してやや小さく、来住層の割合が約半数(50.9%)を占めていました。また、青年層において、Uターン層(25.1%)が多く認められることもわかりました。

問8 あなたの家族構成は、次のどれになりますか。

家族構成			
	度数	有効パーセント	累積パーセント
一人暮らし	240	14.9	14.9
あなたと配偶者のみ	553	34.4	49.4
二世世代家族（あなたが親世代）	498	31.0	80.4
二世世代家族（あなたが子世代）	179	11.1	91.5
三世世代家族（あなたが一番上の世代）	42	2.6	94.1
三世世代家族（あなたがまん中の世代）	53	3.3	97.4
三世世代家族（あなたが一番下の世代）	15	0.9	98.4
その他	26	1.6	100.0
合計	1606	100.0	
無回答	30		
合計	1636		

・家族構成を確認したところ、「あなたと配偶者のみ」が最も多く 34.4%を占めており、「二世世代家族（あなたが親世代）」の 31.0%、「一人暮らし」の 14.9%が続く結果となりました。「三世世代家族」は、回答者の属する世代別の3つの選択肢を合計しても 6.8%であり、少数であることがわかりました。

・一人暮らし(14.9%)、あなたと配偶者のみ(夫婦のみ)(34.4%)で暮らす世帯は5割弱(計49.3%)となり、2017年調査(46.0%)とほぼ同じ割合でした。



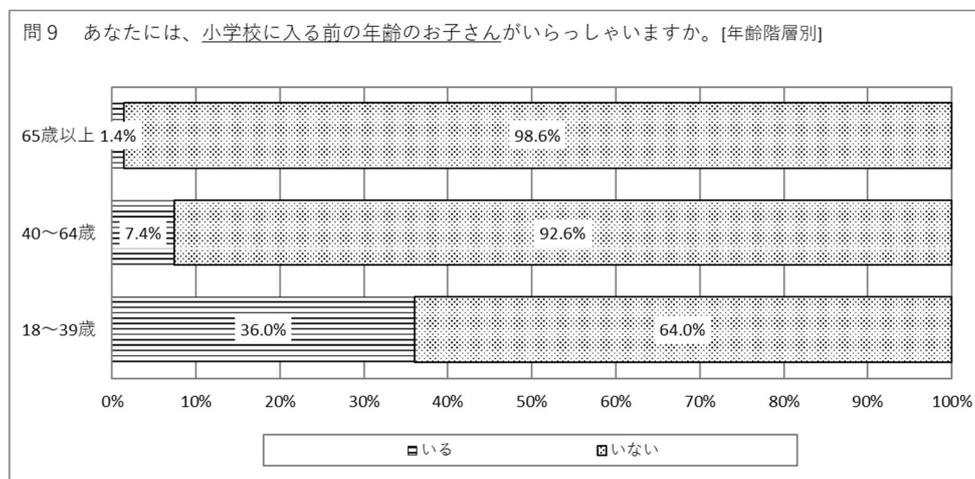
P<.01

・年齢階層別にみると、高齢層では一人暮らし(21.1%)、夫婦のみ(47.9%)の世帯を合わせると約7割(69.0%)を占めていました。壮年層でもその割合は3割を超えて(32.9%)いましたが、特に高齢層の世帯の極小化が顕著であることがわかりました。

問9 あなたには、小学校に入る前の年齢のお子さんがいらっしゃいますか。

小学校入学前の子どもの有無			
	度数	有効パーセント	累積パーセント
いる	136	8.4	8.4
いない	1477	91.6	100.0
合計	1613	100.0	
無回答	23		
合計	1636		

・小学校入学前の子どもの有無を確認したところ、「いない」と回答した人が9割以上(91.6%)を占めており、小学校に入る前の子どものいる回答者はごく少数であることがわかりました。



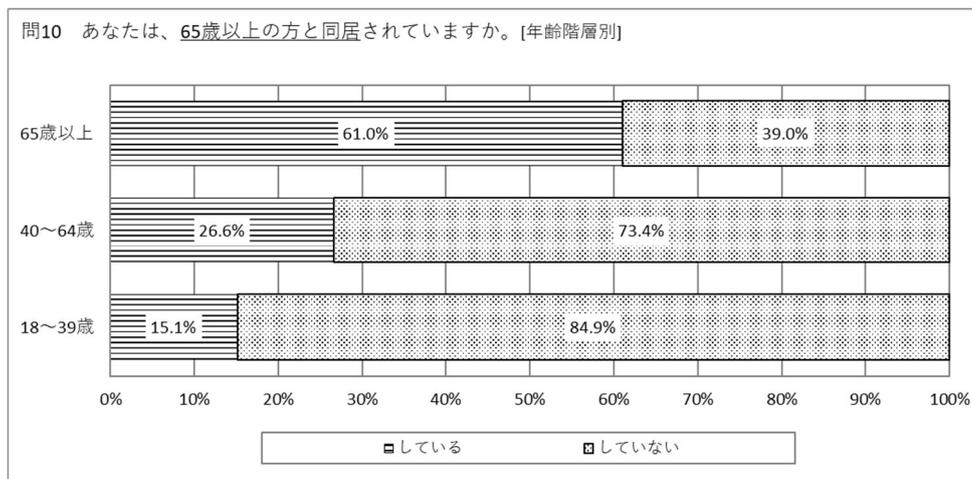
P<.01

・年齢階層別では、青年層で未就学児のいる人が3割強(36.0%)を占めていることがわかりました。

問10 あなたは、65歳以上の方と同居されていますか。

65歳以上の方との同居			
	度数	有効パーセント	累積パーセント
している	674	41.9	41.9
していない	933	58.1	100.0
合計	1607	100.0	
無回答	29		
合計	1636		

・65歳以上の方との同居を確認すると、同居「している」とした人が41.9%、同居「していない」とした人が58.1%という結果となりました。約4割の回答者が65歳以上の方と同居していることがわかりました。



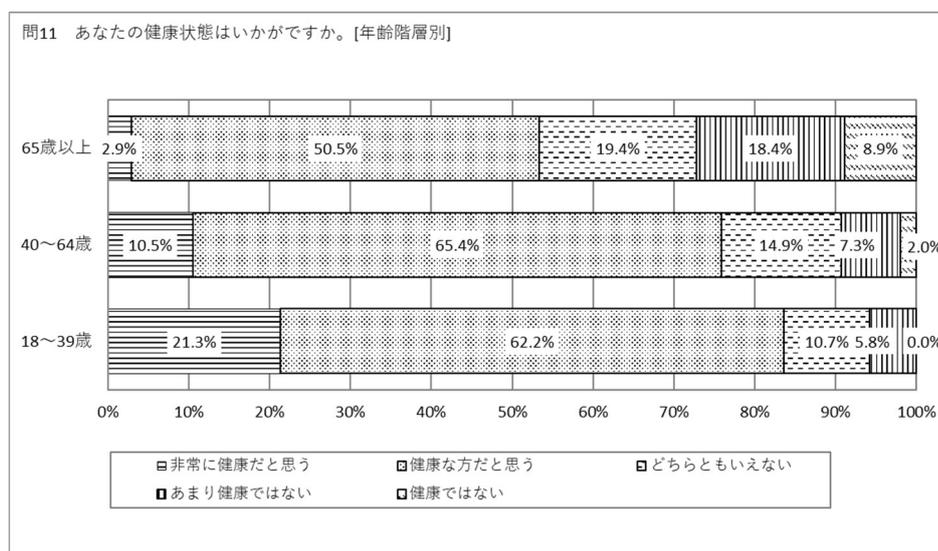
P<.01

・年齢階層別では、高齢層では約6割(61.0%)が65歳以上の方と同居していましたが、壮年層では26.6%、青年層では15.1%にとどまりました。65歳以上の高齢者の約半数が夫婦のみ世帯(「あなたと配偶者のみ」)でしたが(問8)、世帯の極小化の実態がここでも確認されました。

問11 あなたの健康状態はいかがですか。

健康状態			
	度数	有効パーセント	累積パーセント
非常に健康だと思う	133	8.2	8.2
健康な方だと思う	931	57.6	65.8
どちらともいえない	267	16.5	82.3
あまり健康ではない	203	12.6	94.9
健康ではない	83	5.1	100.0
合計	1617	100.0	
無回答	19		
合計	1636		

・健康状態について尋ねたところ、健康である(「非常に健康だと思う」と「健康な方だと思う」との合計)とした回答者が約 6 割半(65.8%)を占めました。「どちらともいえない」という回答は 16.5%でした。健康ではない(「あまり健康ではない」と「健康ではない」との合計)と感じている人は 17.7%でした。



P<.01

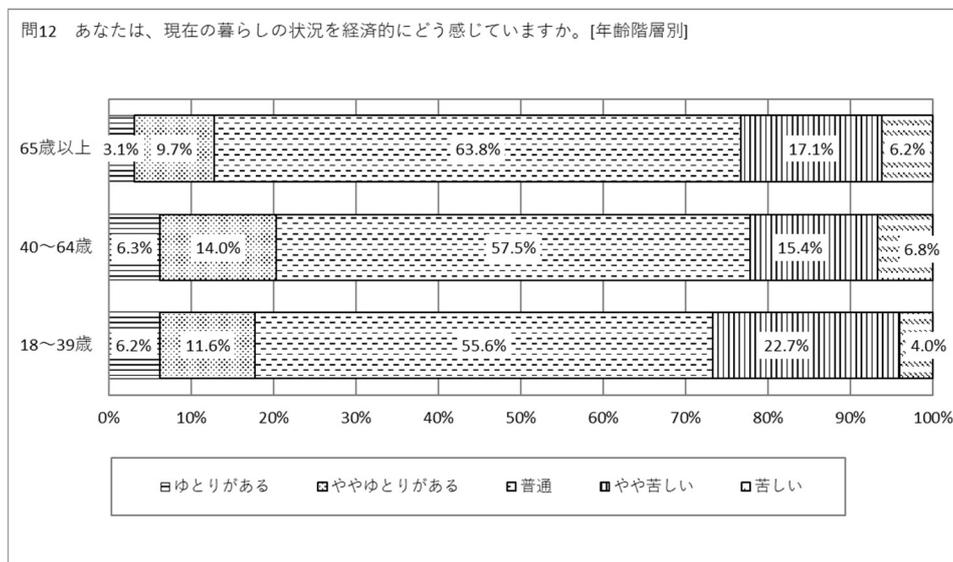
・健康状態の自己認識を年齢階層別にみると、「健康である」(「非常に健康だと思う」と「健康な方だと思う」との合計)と感じている人は、青年層で約 8 割(83.5%)、壮年層で 7 割以上(75.9%)、高齢層で約 5 割(53.4%)となり、年齢が高まるにつれて、自分自身を健康だと感じている人は減少しています。また、高齢層では、「どちらともいえない」との回答が 2 割近くを占めており、青年層(10.7%)のおおよそ 2 倍となっています。高齢層では、自分自身の健康状態に不安を抱えている人が増えている様子が示唆されます。

・ただし、自分自身を「健康ではない」と感じている高齢層は 3 割を切っており(26.7%)、高齢層であっても多くの人自分自身を健康であると認識しているようです。

問12 あなたは、現在の暮らしの状況を経済的にどう感じていますか。

経済状況			
	度数	有効パーセント	累積パーセント
ゆとりがある	76	4.7	4.7
ややゆとりがある	187	11.6	16.3
普通	976	60.4	76.6
やや苦しい	279	17.3	93.9
苦しい	99	6.1	100.0
合計	1617	100.0	
無回答	19		
合計	1636		

・現在の経済的な暮らしの状況について尋ねたところ、約6割の人が「普通」(60.4%)と回答しました。経済的に苦しい(「やや苦しい」と「苦しい」との合計)と感じている人は2割強(23.4%)という結果となり、ゆとりがある(「ゆとりがある」と「ややゆとりがある」との合計)と感じている人の割合(16.3%)を上回りました。



P<.01

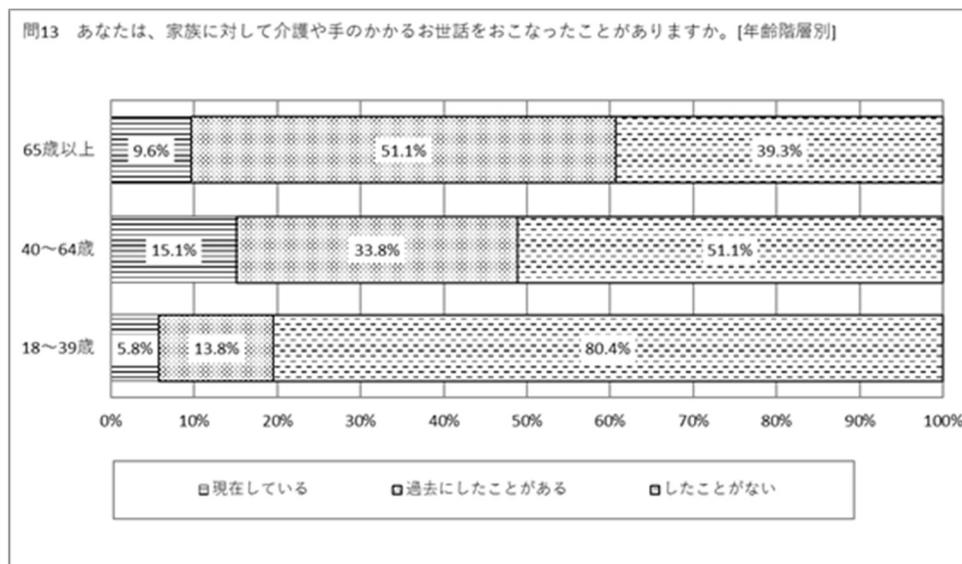
・年齢階層別にみると、年齢階層間に顕著な違いは見られないものの、壮年層、高齢層よりも青年層で、経済的な苦しさを感じている人がわずかですが多い様子が伺えます。暮らしにゆとりがある(「ゆとりがある」と「ややゆとりがある」との合計)と回答した人は、壮年層では2割(20.3%)に達していますが、青年層(17.8%)、高齢層(12.8%)では1割台にとどまりました。

問13 あなたは、家族に対して介護や手のかかるお世話を行ったことがありますか。

介護やてのかかるお世話の経験			
	度数	有効パーセント	累積パーセント
現在している	178	11.1	11.1
過去にしたことがある	634	39.5	50.6
したことがない	793	49.4	100.0
合計	1605	100.0	
無回答	31		
合計	1636		

・介護経験層としての介護や手のかかるお世話をしたことがある人(「現在している」と「過去にしたことがある」)人の合計が約半数(50.6%)、「したことがない」人も約半数(49.4%)という結果となりました。

介護経験層の割合(50.6%)は、2017年調査(46.0%)よりもわずかに増加していますが、ほぼ同じ割合となりました。



P<.01

・年齢階層別にみると、介護を「現在している」回答者は、壮年層(15.1%)がもっとも多く、次いで高齢層(9.6%)となりました。

介護を「過去にしたことがある」回答者は、高齢層では半数弱(51.1%)となり、「現在している」回答者を合わせると6割(計60.7%)に迫ります。壮年層でも、その割合は5割近く(48.9%)を占めています。

・その一方で、介護を「したことがない」回答者は、青年層では8割にのぼり(80.4%)、壮年層で半数(51.1%)、高齢層でも4割弱(39.3%)存在します。介護はますます身近なものとなっていますが、壮年層、高齢層において介護の経験がない人も少なくないということの背景には、問11の結果からもうかがえるように介護を必要としない高齢者も多いことなどが考えられます。

問 14 あなたは、「地域」という言葉を聞いたとき、最初に思い浮かべる「地域」の範囲は次のどれになりますか。

思い浮かべる「地域」の範囲			
	度数	有効パーセント	累積パーセント
山口市全域	274	17.2	17.2
山口、小郡、秋穂、阿知須、徳地、阿東の各地域	409	25.7	43.0
各地域交流センター	239	15.0	58.0
小学校区	188	11.8	69.9
町内会・自治会	454	28.6	98.4
班・組	16	1.0	99.4
その他	9	0.6	100.0
合計	1589	100.0	
無回答	47		
合計	1636		

・「地域」という言葉を聞いて最初に思い浮かべる範囲としては、「町内会・自治会」(28.6%)と「山口、小郡、秋穂、阿知須、徳地、阿東の各地域」(25.7%)が多い回答となりました。「山口市全域」(17.2%)、「各地域交流センター」(15.0%)、「小学校区」(11.8%)との回答も1割台で存在し、全体的に回答が分散しました。

支持を集めた順序は前回2017年調査と同じとなり、割合もほぼ同程度でした。

問 15 あなたは、地域の支え合い活動(ご近所で困ったときに協力し合ったり、助け合ったりすること)を進めることを考えたときに、最初に思い浮かべる地域の範囲は次のどれになりますか。

地域の支え合い活動で思い浮かべる地域の範囲			
	度数	有効パーセント	累積パーセント
山口市全域	114	7.3	7.3
山口、小郡、秋穂、阿知須、徳地、阿東の各地域	175	11.2	18.5
各地域交流センター	166	10.6	29.1
小学校区	98	6.3	35.4
町内会・自治会	851	54.4	89.8
班・組	148	9.5	99.2
その他	12	0.8	100.0
合計	1564	100.0	
無回答	72		
合計	1636		

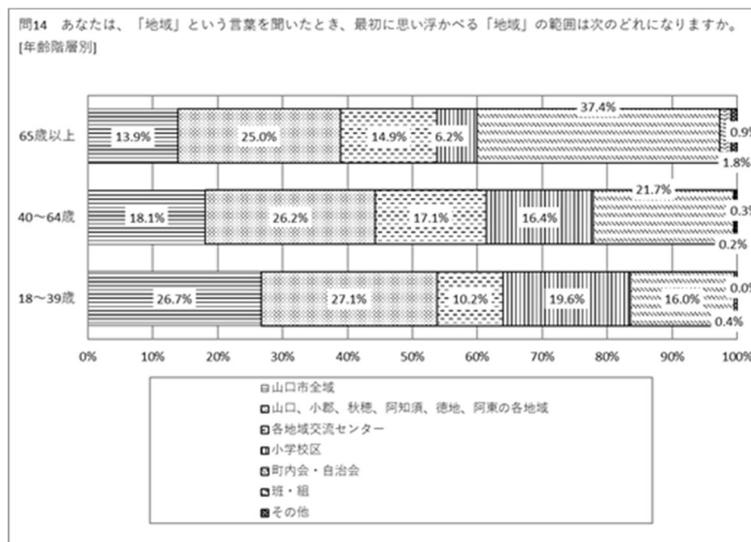
・地域の支え合い活動を進める場の範囲として、約半数(54.4%)の人が「町内会・自治会」を思い浮かべていることが明らかとなりました。続いて回答が多かった地域の範囲は「山口、小郡、秋穂、阿知須、徳地、阿東の各地域」(11.2%)、「各地域交流センター」(10.6%)、「班・組」(9.5%)といった順になり、いずれも約1割前後に留まる結果となりました。問14の地域という言葉から思い浮かべる地域と比較すると、「町内会・自治会」の割合が高くなり、より支持が集まっていることがわかります。

「地域」から最初に思い浮かべる範囲

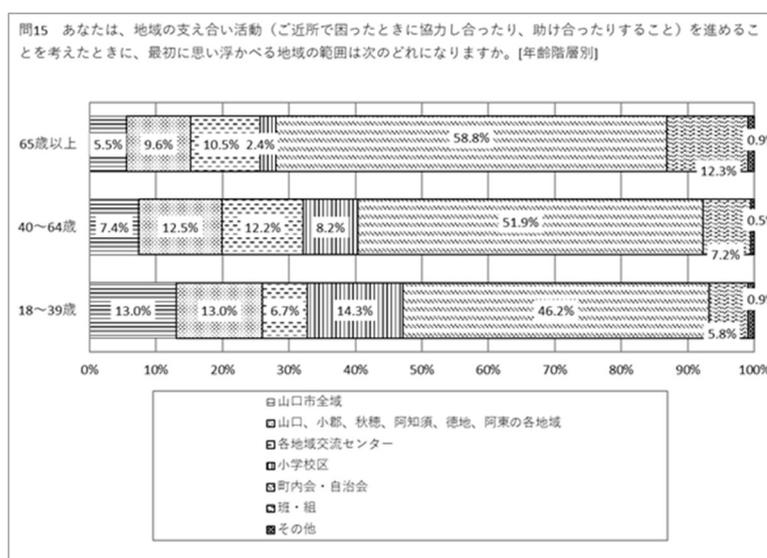
- 1)町内会・自治会(28.6%)
- 2)合併前の旧市町(25.7%)
- 3)山口市全域(17.2%)
- 4)各地域交流センター(15.0%)

支え合い活動の地域

- 1)町内会・自治会(54.4%)
- 2)合併前の旧市町(11.2%)
- 3)各地域交流センター(10.6%)
- 4)班・組(9.5%)



P<.01



P<.01

・年齢階層別にみると、地域という言葉から最初に思い浮かべる範囲は、各年齢層ともに、4分の1ほどは「山口、小郡、秋穂、阿知須、徳地、阿東の各地域」を支持しています。青年層では、「山口市全域」(26.7%)がほぼ同じ割合で支持されているのに対して、壮年層(21.7%)、高齢層(37.4%)では、「町内会・自治会」を支持する回答者の割合が高く、高齢層ではもっとも多くの支持を集めていることがわかります。青年層がより広域の範囲を支持している一方で、高齢層では「町内会・自治会」といったより狭域の範囲を支持していることがわかります。

・一方で、地域の支え合い活動の範囲としては、各年齢層ともに「町内会・自治会」がもっとも多くの支持を集めています。青年層で46.2%、壮年層で51.9%、高齢層で58.8%と半数前後の割合を占めました。

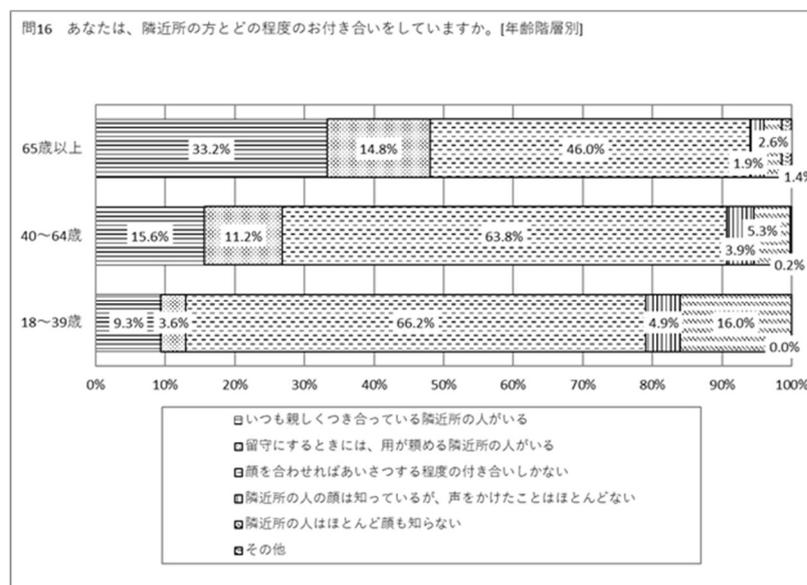
・問14と問15の結果を比べると、一般的な地域の範囲と、支え合い活動の地域の範囲が必ずしも一致するものではないことがわかります。居住歴や生活スタイルなどの違いによって、このように地域の範囲の認識に違いが生まれていると考えられます。

問16 あなたは、隣近所の方とどの程度のお付き合いをしていますか。

隣近所の方との付き合いの程度			
	度数	有効パーセント	累積パーセント
いつも親しくつき合っている隣近所の人がある	369	23.3	23.3
留守にするときには、用が頼める隣近所の人がある	188	11.9	35.2
顔を合わせればあいさつする程度の付き合いしかない	879	55.5	90.7
隣近所の方の顔は知っているが、声をかけたことはほとんどない	49	3.1	93.8
隣近所の方はほとんど顔も知らない	87	5.5	99.2
その他	12	0.8	100.0
合計	1584	100.0	
無回答	52		
合計	1636		

・隣近所の方との付き合いについて、「顔を合わせればあいさつする程度の付き合いしかない」人が約半数(55.5%)で最多となり、前回2017年調査(49.9%)から、わずかに増加しました。続いて「いつも親しくつき合っている隣近所の人がある」人が約2割(23.3%)となり、「留守にするときには、用が頼める隣近所の人がある」人が約1割(11.9%)となりました。親しく安定した近隣関係がある回答者の割合は3割強(35.2%)であり、前回2017年調査(38.5%)からわずかに減少しましたが、ほぼ同じ割合でした。

「隣近所の方の顔は知っているが、声をかけたことはほとんどない」(3.1%)、「隣近所の方はほとんど顔も知らない」(5.5%)といった、近所付き合いの少ない回答者はわずかでした(計8.6%)。



P<.01

・年齢階層別にみると、最も回答者の割合が高いのは、いずれの年齢階層でも「顔を合わせればあいさつする程度の付き合いしかない」という項目でした。青年層では約6割(66.2%)、高齢層でも約4割(46.0%)を占めました。青年層ではこれに次いで「隣近所の方はほとんど顔も知らない」という人が多くなっています(16.0%)。

・一方、「いつも親しくつき合っている隣近所の人がある」人は、青年層では1割未満(9.3%)ですが、壮年層では15.6%、高齢層では3割を超えています(33.2%)。年齢階層が高くなるほど、近所の人とのつながりを持つ人の割合が高いことが示されました。

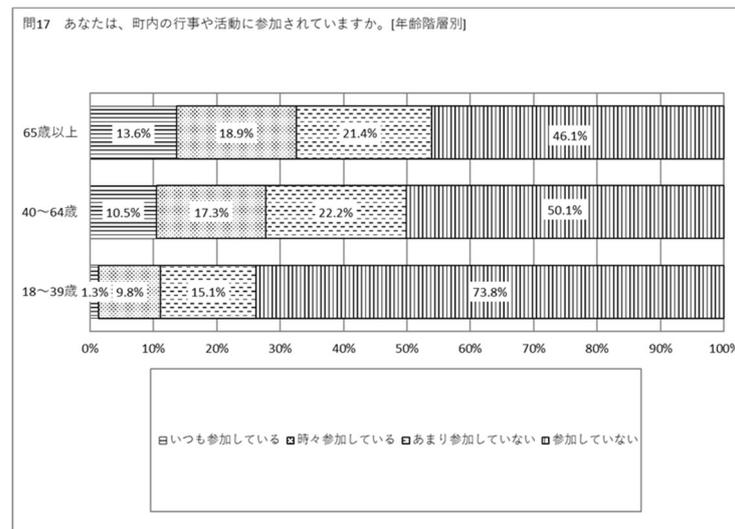
問17 あなたは、新型コロナウイルス感染症拡大以降、町内の行事や活動に参加されていますか。

コロナ以降の町内行事や活動への参加			
	度数	有効パーセント	累積パーセント
いつも参加している	174	10.8	10.8
時々参加している	275	17.0	27.8
あまり参加していない	336	20.8	48.6
参加していない	830	51.4	100.0
合計	1615	100.0	
無回答	21		
合計	1636		

・新型コロナウイルス感染症拡大以降、町内の行事や活動への参加層(「いつも参加している」と「時々参加している」との合計)は3割弱(27.8%)となり、不参加層(「あまり参加していない」と「参加していない」との合計)が約7割(72.2%)を超える結果となりました。

前回2017年調査では、参加層の割合は5割(54.1%)を超え、不参加層の割合は約4割(44.1%)でしたので、参加層の割合が大幅に減少したことがわかります。

P<.01



・年齢階層別に見ると、町内の行事や活動に参加している人(「いつも参加している」と「時々参加している」との合計)は、青年層で約1割(11.1%)、壮年層(27.8%)と高齢層(32.5%)で約3割という結果になりました。

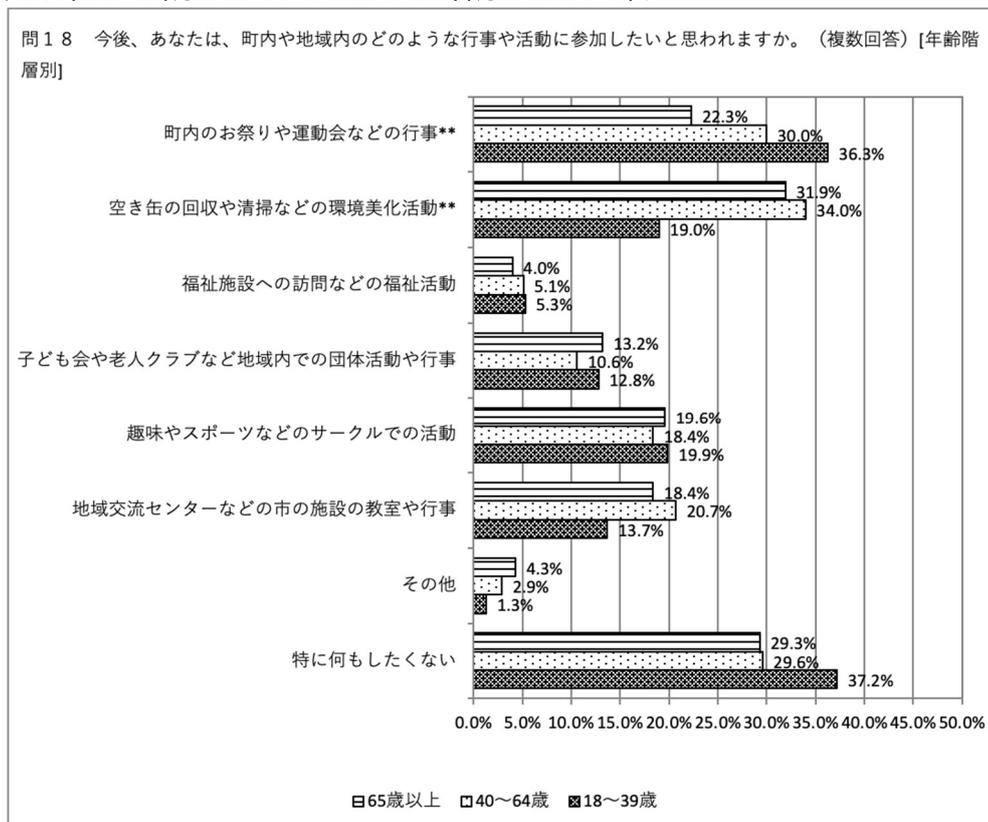
・一方、行事や活動に参加していない人(「あまり参加していない」と「参加していない」との合計)は、青年層では9割近く(88.9%)、高齢層でも6割以上(67.5%)を占めています。年齢層が高くなるほど参加する人の割合も高まりますが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響が大きいとはいえ、町内の行事や活動に足を運ばない人の方が多いようです。

問 18 あなたは、町内や地域内のどのような行事や活動に参加したいと思われませんか。(〇はいくつでも)

町内や地域内の参加したい行事や活動		
町内のお祭りや運動会などの行事	度数	442
	%	27.6
空き缶の回収や清掃などの環境美化活動	度数	505
	%	31.6
福祉施設への訪問などの福祉活動	度数	75
	%	4.7
子ども会や老人クラブなど地域内での団体活動や行事	度数	200
	%	12.5
趣味やスポーツなどのサークルでの活動	度数	314
	%	19.6
地域交流センターなどの市の施設の教室や行事	度数	304
	%	19.0
その他	度数	55
	%	3.4
特に何もしたくない	度数	499
	%	31.2

・参加したい町内や地域内の行事や活動について尋ねたところ、「空き缶の回収や清掃などの環境美化活動」(31.6%)と「町内のお祭りや運動会などの行事」(27.6%)が多くの支持を集めました。こうした傾向は前回 2017 年調査と大きな変化はありませんでした。また、他の行事や活動においては、参加したいと思う人はいずれの項目でも 2 割以下と低調な結果にとどまりました。

・また、「特に何もしたくない」と感じている人が 3 割(31.2%)を超えることが明らかになりました。過去の調査と比較すると増加傾向にあり、新型コロナウイルス感染症拡大の影響が大きいとはいえ、注意が必要です(2013 調査 27.3%→2017 年調査 24.8%)。



* P<.05 ** P<.01

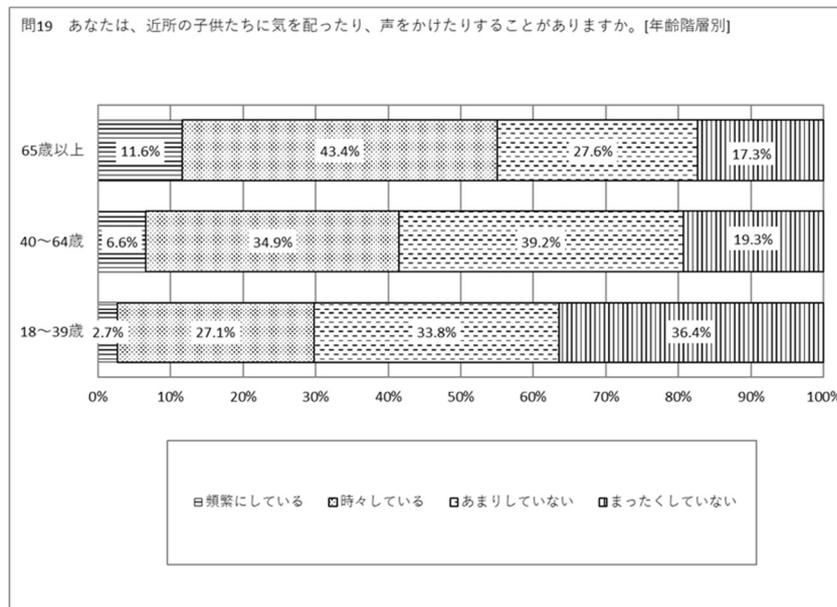
・年齢階層別にみると、青年層では「町内のお祭りや運動会などの行事」が多くの支持を集めました(36.3%)。壮年層も 3 割が参加したいと回答しています(30.0%)。「空き缶の回収や清掃などの環境美化活動」は、壮年層(34.0%)と高齢層(31.9%)の割合が高くなっています。年齢階層によって関心のある活動が異なることをふまえた活動の検討が重要といえます。

・加えて、「特に何もしたくない」という回答者が、青年層では約 4 割(37.2%)、壮年層(29.6%)・高齢層(29.3%)で約 3 割存在していることにも注意が必要です。

問 19 あなたは、近所の子どもたちに気を配ったり、声をかけたりすることがありますか。

近所子どもとの関わり			
	度数	有効パーセント	累積パーセント
頻繁にしている	136	8.5	8.5
時々している	608	38.0	46.5
あまりしていない	524	32.8	79.3
まったくしていない	332	20.8	100.0
合計	1600	100.0	
無回答	36		
合計	1636		

・近所の子どもたちに気を配ったり、声をかけたりしている人(「頻繁にしている」と「時々している」との合計)は 46.5%、していない人(「あまりしていない」と「まったくしていない」との合計)は 53.6%と、約半数ずつに分かれる結果となりました。



P<.01

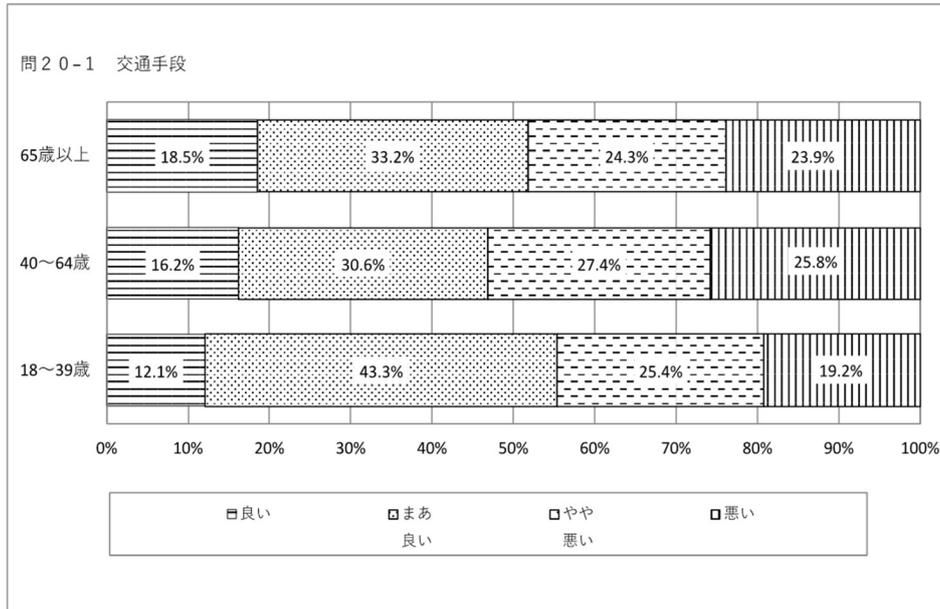
・年齢階層別にみると、近所の子供たちに気を配ったり、声をかけたりしている人(「頻繁にしている」と「時々している」との合計)は、青年層で 29.8%、壮年層で 41.5%、高齢層で 55.0%と年齢層が高くなるほど割合も高くなっています。実際に子育てをしていると思われる青年層、壮年層よりも、高齢層の方が近所の子どもたちに対し積極的に関わりを築いていることが示されています。問 17 で明らかとなったように、地域の活動の担い手として高齢者が参加していることや、高齢者は日中に比較的時間のゆとりのある人が多いことなどが背景としてうかがえます。

問20 あなたは、住んでいる地域の生活環境について、どう思われますか。(各項目○はひとつ)
 ※ここでのいう地域とは、現在お住まいの間5に示した市内29地域としてお考えください。

		住んでいる地域の生活環境					
		良い	まあ良い	やや悪い	悪い	合計	無回答
交通手段	度数	265	533	405	379	1582	54
	%	16.8	33.7	25.6	24.0	100.0	
買い物の便利さ	度数	400	642	315	223	1580	56
	%	25.3	40.6	19.9	14.1	100.0	
病院や薬局が近くにあること	度数	424	678	272	194	1568	68
	%	27.0	43.2	17.3	12.4	100.0	
教育機関が多い	度数	230	717	368	194	1509	127
	%	15.2	47.5	24.4	12.9	100.0	
趣味やスポーツ・文化を楽しむ機会	度数	131	615	520	247	1513	123
	%	8.7	40.6	34.4	16.3	100.0	
老人ホームや介護施設などの充実	度数	121	761	466	152	1500	136
	%	8.1	50.7	31.1	10.1	100.0	
子どもを育てる環境	度数	228	968	232	87	1515	121
	%	15.0	63.9	15.3	5.7	100.0	
全体的にみた地域の住み心地	度数	265	1005	233	69	1572	64
	%	16.9	63.9	14.8	4.4	100.0	

・住んでいる地域の生活環境について、「趣味やスポーツ・文化を楽しむ機会」以外の全ての項目で、良い(「良い」と「まあ良い」との合計)という回答が、悪い(「やや悪い」と「悪い」との合計)という回答を上回りました。特に、「子どもを育てる環境」と「全体的にみた地域の住み心地」については良いという回答が約8割(それぞれ 78.9%、80.8%)にのびりました。他方、「老人ホームや介護施設などの充実」では、「良い」という積極的な評価が低い(8.1%)ことや、「交通手段」では良い(「良い」と「まあ良い」との合計)(50.5%)という評価と、悪い(「やや悪い」と「悪い」との合計)(49.6%)という評価が拮抗していることが明らかになりました。

・「全体的にみた地域の住み心地」に満足している回答者の割合は、8割(80.8%)に達しており、過去の調査と同様に高い満足感は維持されています(2013調査 81.6%→2017年調査 77.7%)。

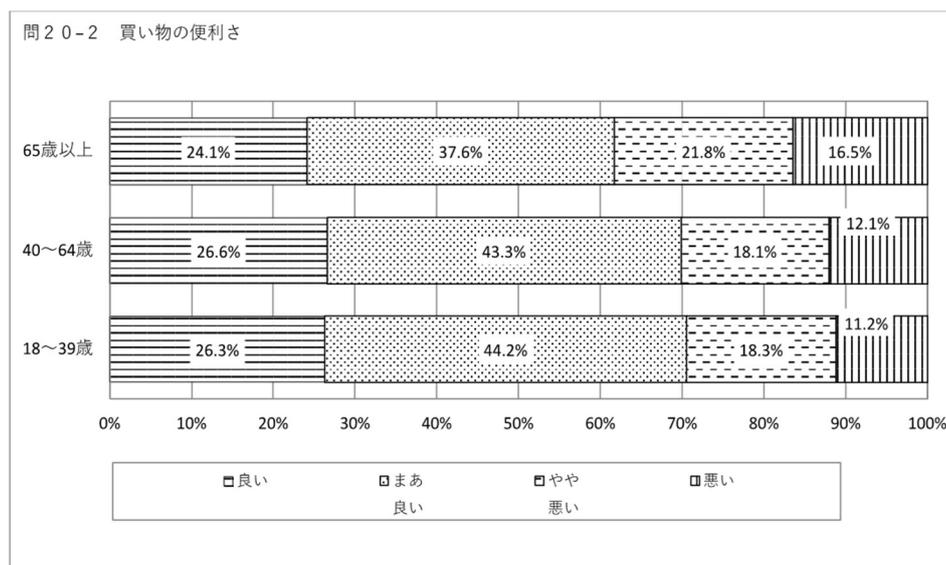


P<.01

それぞれの評価項目について年齢階層別の比較をみてみましょう。

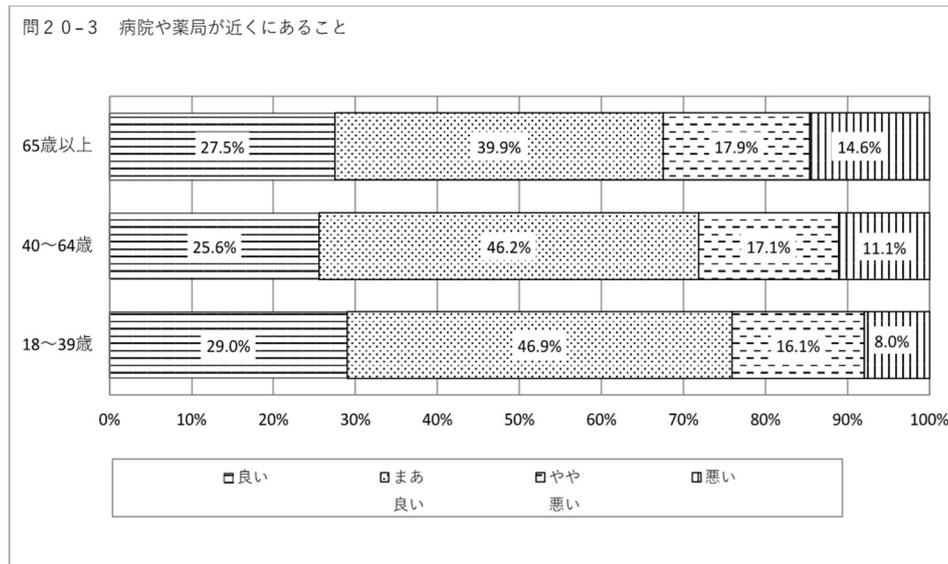
・地域の「交通手段」への評価を年齢階層別にみると、どの年齢層においても、山口市内の交通手段の状況を肯定的に判断する人（「良い」と「まあ良い」との合計）と、否定的に判断する人（「悪い」と「やや悪い」との合計）とがおおむね半数ずつに分かれました。肯定的な評価は青年層で他の年齢層よりも高く（55.4%）となっています。

・青年層は公共交通機関等に頼らずとも、自動車を所有していれば自分自身で運転をし、移動できるため、山口市の交通手段に対し不満を感じる事が少ないのではないかと考えられます。また、青年層に次いで交通手段に関して肯定的評価が多くなっているのは高齢層です（51.7%）。一般に高齢者は交通弱者といわれることがあります。しかし、山口市では、高齢者を対象として「福祉優待バス乗車券」などを発行しており、こうした取り組みの効果が肯定的評価へつながった可能性が考えられます。



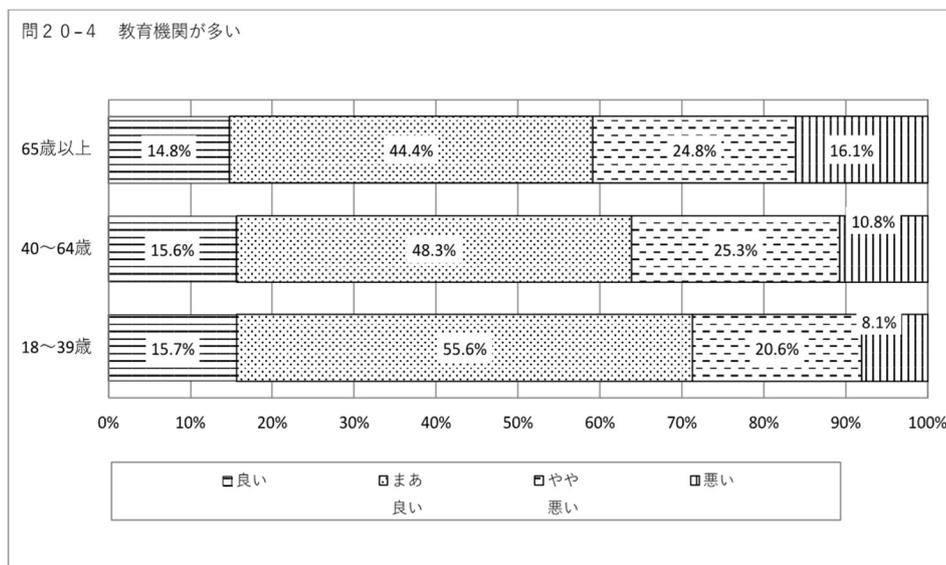
P<.01

・買い物の便利さに関する評価を年齢階層別にみると、青年層(29.5%)、壮年層(30.2%)に比べ、高齢層(38.3%)で否定的な評価(「やや悪い」と「悪い」との合計)が高くなりました。交通手段(問 20-1)では、他の年齢層と比較して高齢層の不満が顕著に高くなってはいませんでしたが、実際の生活の場面では、買い物の際の移動などで高齢者が苦勞を抱えている様子がうかがえます。



P<.01

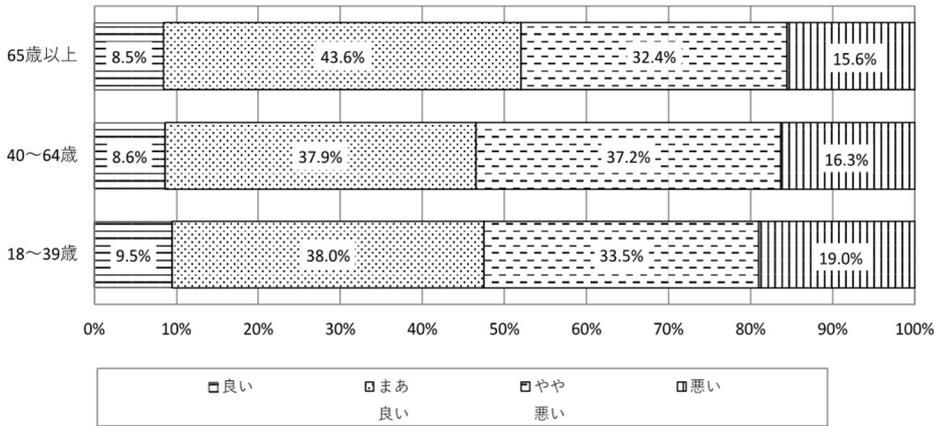
・病院や薬局の利便性への評価を年齢階層別にみると、肯定的評価(「良い」と「まあ良い」との合計)は青年層(75.9%)、壮年層(71.8%)で 7 割以上、高齢層では約 6 割(67.4%)という結果になりました。高齢層では否定的評価(「やや悪い」と「悪い」との合計)が約 3 割(32.5%)と他の年齢層と比較して多くなっています。医療ニーズの高い高齢層に向けて、利便性の向上が求められていると思われます。



P<.01

・教育機関の多さに関する評価を年齢階層別にみると、年齢階層が低いほど、肯定的評価(「良い」と「まあ良い」との合計)が高くなっています。具体的には、青年層では肯定的評価が約7割(71.3%)ですが、壮年層では 6 割強(63.9%)、高齢層では約6割(59.2%)となっています。地域の学校に子どもを通わせている子育て世代では、教育機関について満足度が高いようです。一方で、子育てを終えた高齢層を対象とした社会教育等の機会の拡充も必要といえるかもしれません。

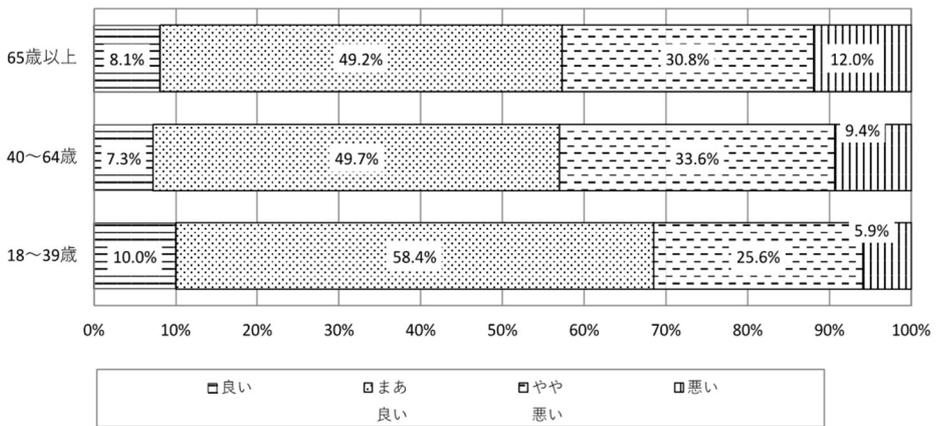
問20-5 趣味やスポーツ・文化を楽しむ機会



P<.01

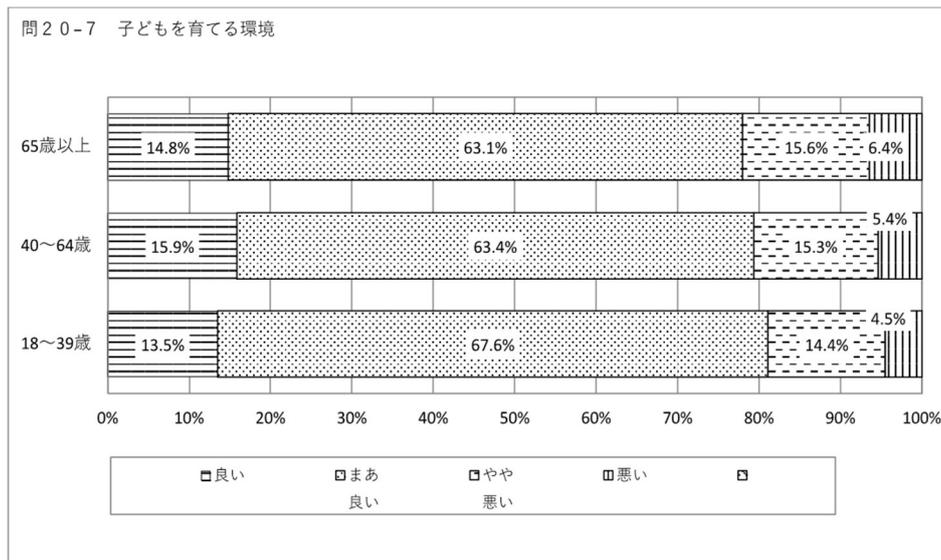
・趣味やスポーツ・文化を楽しむ機会への評価を年齢階層別にみると、どの階層においても肯定的評価（「良い」と「まあ良い」との合計）と、否定的評価（「やや悪い」と「悪い」との合計）が拮抗しています。肯定的評価は、高齢層で 52.1%、壮年層で 46.5%、青年層で 47.5%です。否定的評価は、高齢層で 47.9%、壮年層で 53.5%、青年層 52.5%となりました。高齢層では、趣味やスポーツ・文化を楽しむ機会について、僅差ではありますが肯定的評価が多くなっています。住民の多様なニーズに応えられるような文化活動が望まれます。

問20-6 老人ホームや介護施設などの充実



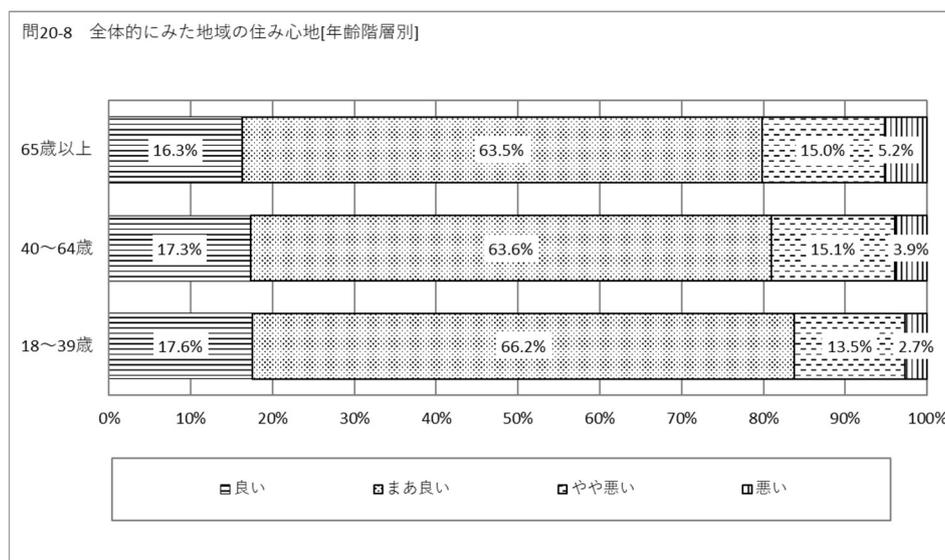
P<.01

・老人ホームや介護施設の充実に関する評価を年齢階層別にみると、否定的評価（「やや悪い」と「悪い」との合計）の割合が、青年層で約 3 割(31.5%)、壮年層(43.0%)、高齢層(42.8%)では約 4 割となっています。老人ホームや介護施設の利用者となる可能性がある高齢層や、高齢の親をもつと思われる壮年層において不満が高くなっています。



P<.01

・子どもを育てる環境に関する評価を年齢階層別にみると、肯定的評価(「良い」と「まあ良い」との合計)が、青年層(81.1%)、壮年層(79.3%)、高齢層(77.9%)となり、いずれの年齢層でも 8 割程度となっています。現在子育てをしている青年層、壮年層と、子育てを終えた世代である高齢層の評価がほぼ一致していることから、子育てをめぐる環境は良好な状態として維持されていると考えられます。



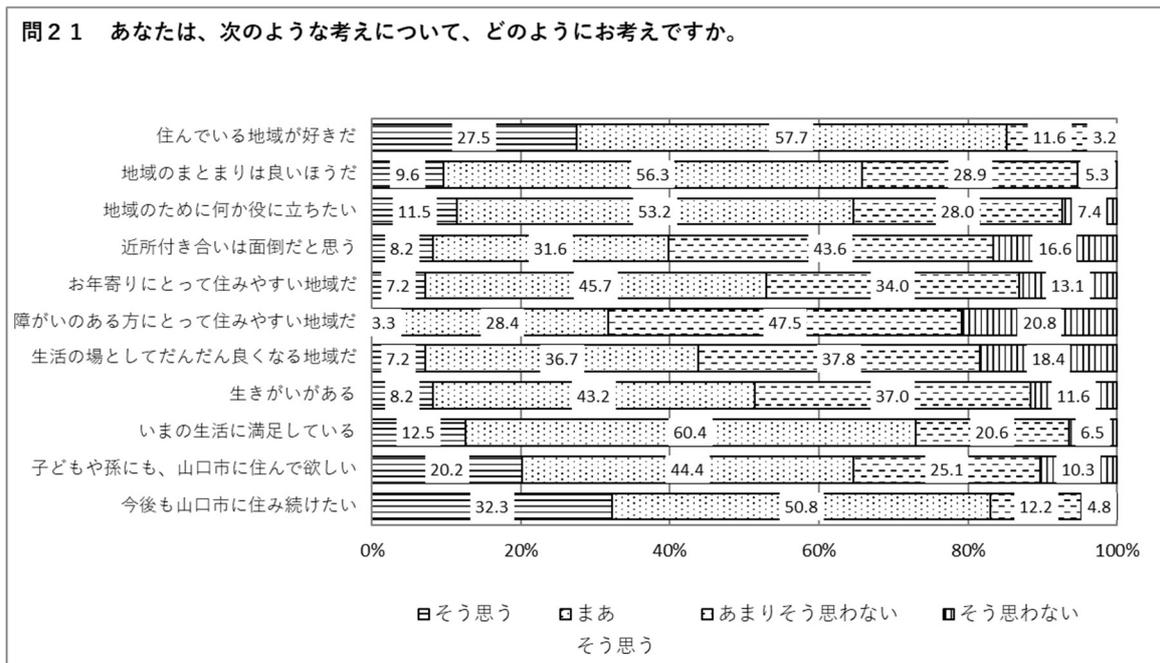
P<.01

・全体的にみた地域の住み心地に関する評価を年齢階層別にみると、全ての年齢階層で肯定的評価(「良い」と「まあ良い」との合計)が 8 割前後となりました。青年層で 83.8%、壮年層で 80.9%、高齢層で 79.8%となっています。年齢階層が低くなるほど、地域の住み心地に関する評価はわずかな差ではありますが、高くなりました。

・年齢階層が低いほど満足度が高くなるという傾向は、問20の他の多くの項目でも示されています。こうした青壮年層の高い満足感を維持しつつ、高齢者人口が年々増加している山口市では、高齢者にとって良好な生活環境を提供する取り組みも求められていると思われます。

問21 あなたは、次のような考えについて、どのようにお考えですか。(各項目○はひとつ)
 ※ここでいう地域とは、現在お住まいの間5に示した市内29地域としてお考えください。

		そう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	合計	無回答
住んでいる地域が好きだ	度数	433	909	183	51	1576	60
	%	27.5	57.7	11.6	3.2	100.0	
地域のまとまりは良いほうだ	度数	149	877	451	82	1559	77
	%	9.6	56.3	28.9	5.3	100.0	
地域のために何か役に立ちたい	度数	177	821	432	114	1544	92
	%	11.5	53.2	28.0	7.4	100.0	
近所付き合いは面倒だと思う	度数	128	493	681	260	1562	74
	%	8.2	31.6	43.6	16.6	100.0	
お年寄りにとって住みやすい地域だ	度数	113	719	534	206	1572	64
	%	7.2	45.7	34.0	13.1	100.0	
障がいのある方にとって住みやすい地域だ	度数	51	437	732	320	1540	96
	%	3.3	28.4	47.5	20.8	100.0	
生活の場としてだんだん良くなる地域だ	度数	111	566	583	284	1544	92
	%	7.2	36.7	37.8	18.4	100.0	
生きがいがある	度数	126	668	572	180	1546	90
	%	8.2	43.2	37.0	11.6	100.0	
いまの生活に満足している	度数	196	944	322	101	1563	73
	%	12.5	60.4	20.6	6.5	100.0	
子どもや孫にも、山口市に住んで欲しい	度数	310	682	385	158	1535	101
	%	20.2	44.4	25.1	10.3	100.0	
今後も山口市に住み続けたい	度数	509	800	192	75	1576	60
	%	32.3	50.8	12.2	4.8	100.0	



・地域に対する意識を確認したところ、「住んでいる地域が好きだ」という地域への愛着を持つ回答者の割合(「そう思う」、「まあそう思う」との合計)が、もっとも大きくなり 8 割(85.2%)を超えています。

・また、「今後も山口市に住み続けたい」という永住意思の高い回答者も 8 割(83.1%)を超えました。「いまの生活に満足している」という生活満足度の高い回答者も 7 割(72.9%)を超えています。・「地域のまとまりは良いほうだ」という地域への連帯意識を持つ回答者の割合は、約 6 割半(65.9%)となりました。「地域のために何か役に立ちたい」という地域への貢献意識を持つ回答者も約 6 割半(64.7%)を占めています。「子どもや孫にも、山口市に住んで欲しい」という回答者も約 6 割半(64.6%)となっています。

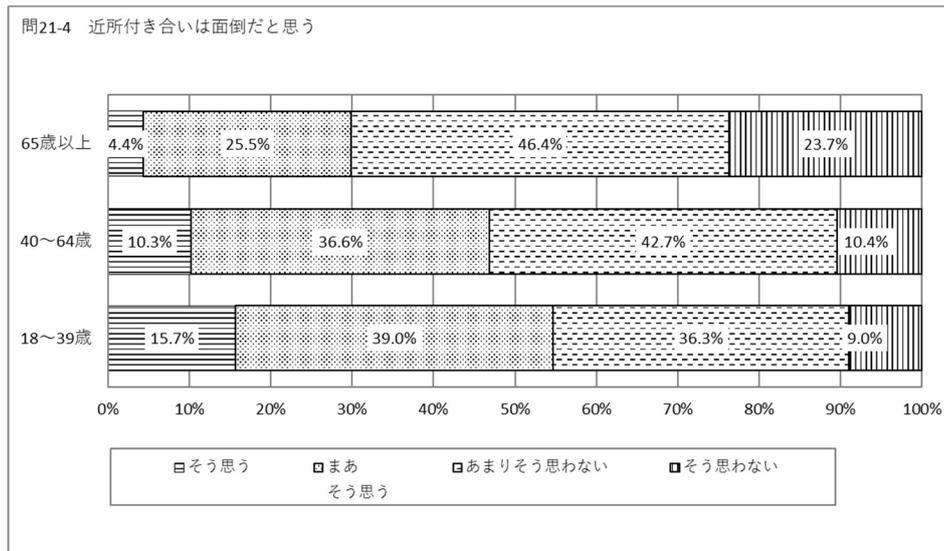
・「近所付き合いは面倒だと思う」という意見に対して否定的な回答者(「そう思わない」、「あまりそう思わない」との合計)は、約 6 割(60.2%)となりました。

・一方、地域の将来展望を示す「生活の場としてだんだん良くなる地域だ」という意見に対しては、否定的な層(「そう思わない」、「あまりそう思わない」との合計)が半数(56.2%)を超えています。

・過去の調査と比較すると、愛着度(2013年調査81.8%→2017年調査79.2%)、永住意思(2013年調査80.7%→2017年調査77.2%)、楽観できない将来展望(2013調査56.1%→2017年調査52.5%)となり、愛着度や永住意思を持つ人の割合がわずかに増えていますが大きな変化はありませんでした。

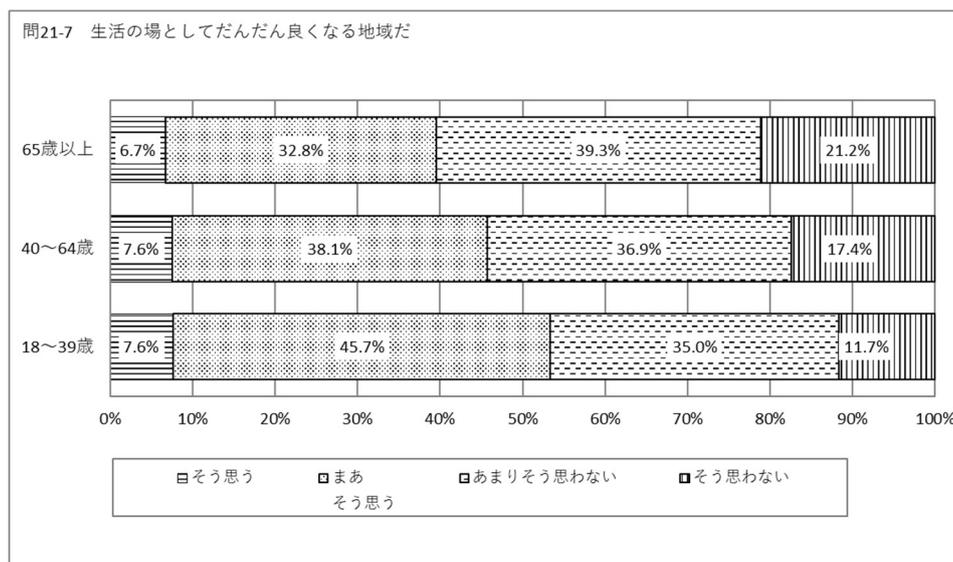
・地域のために何か役に立ちたいという貢献意欲を持つ回答者の割合は 6 割強(計 64.7%)となり、過去の調査と比較しても(2013年調査63.8%→2017年調査60.6%)とほとんど変化はありませんでした。

・また、「お年寄りにとって住みやすい地域だ」という回答者(「そう思う」と「まあそう思う」との合計)が 5 割強(52.9%)であるのに対し、「障がいのある方にとって住みやすい地域だ」という回答者は 3 割強(31.7%)に留まりました。



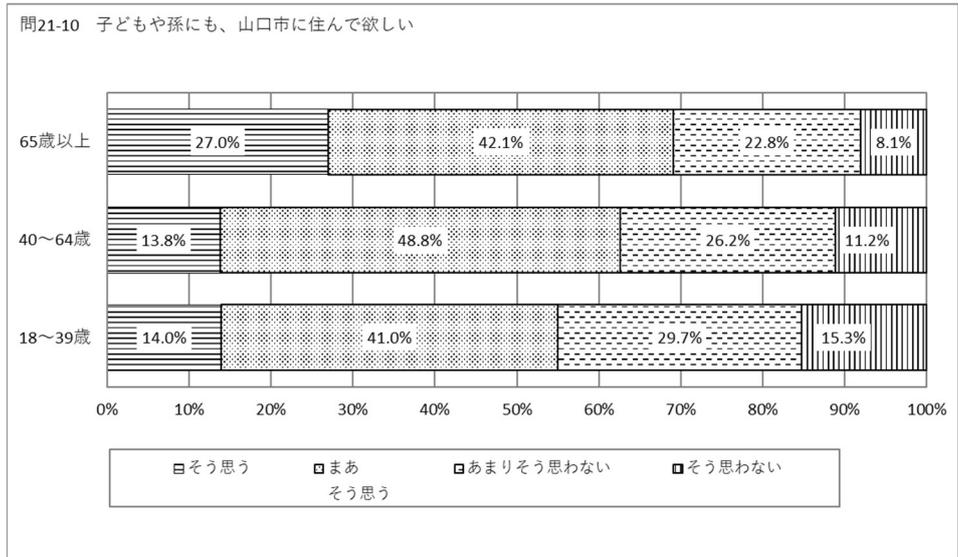
P<.01

・年齢階層別にみると、「近所付き合いは面倒だと思う」という意見については、より若い年齢層で肯定的な回答の割合が高くなっており、青年層においては、「面倒だ」と思う回答（「そう思う」、「まあそう思う」との合計）が半数を超えています（54.7%）。

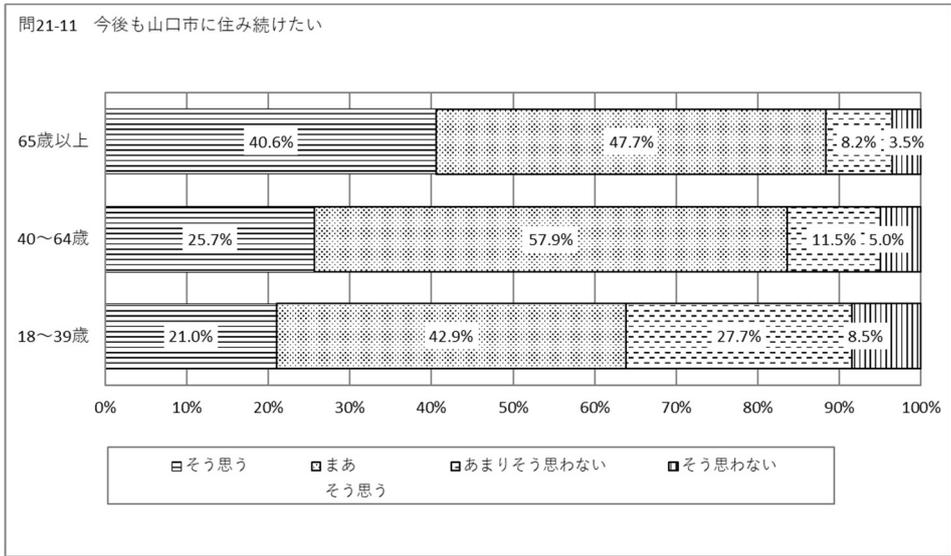


P<.01

・「生活の場としてだんだん良くなる地域だ」という意見についても、より若い年齢層で肯定的な回答（「そう思う」、「まあそう思う」との合計）の割合が高くなっており、青年層（53.3%）では地域の今後への期待が比較的高いことがわかります。



P<.01



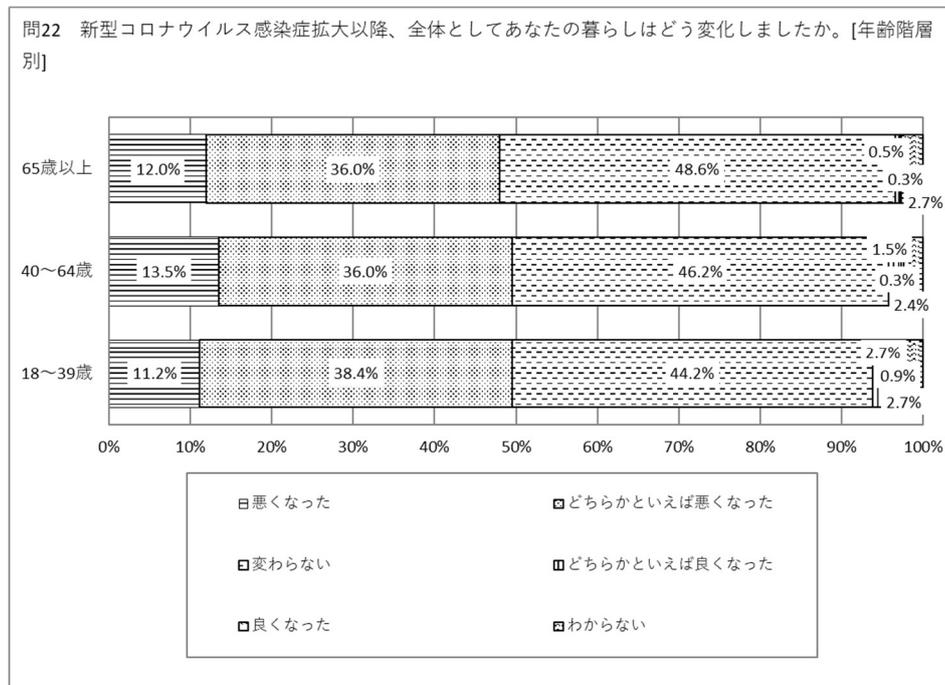
P<.01

・「子どもや孫にも、山口市に住んで欲しい」といった意見に対しては、高齢層で肯定的な回答(「そう思う」、「まあそう思う」との合計)の割合が高くなっており、「今後も山口市に住み続けたい」という永住意思についても高齢層で高いことが示されました。

問22 新型コロナウイルス感染症拡大以降、全体としてあなたの暮らしはどう変化しましたか。

新型コロナウイルス感染症拡大以降の暮らしの変化			
	度数	有効パーセント	累積パーセント
悪くなった	197	12.4	12.4
どちらかといえば悪くなった	575	36.3	48.7
変わらない	746	47.1	95.8
どちらかといえば良くなった	19	1.2	97.0
良くなった	6	0.4	97.4
わからない	41	2.6	100.0
合計	1584	100.0	
無回答	52		
合計	1636		

・新型コロナウイルス感染症拡大以降の暮らしの変化について尋ねると、悪化層(「悪くなった」、「どちらかといえば悪くなった」との合計)が5割弱(48.7%)を占めました。一方、「変わらない」という回答者も5割弱(47.1%)存在しました。



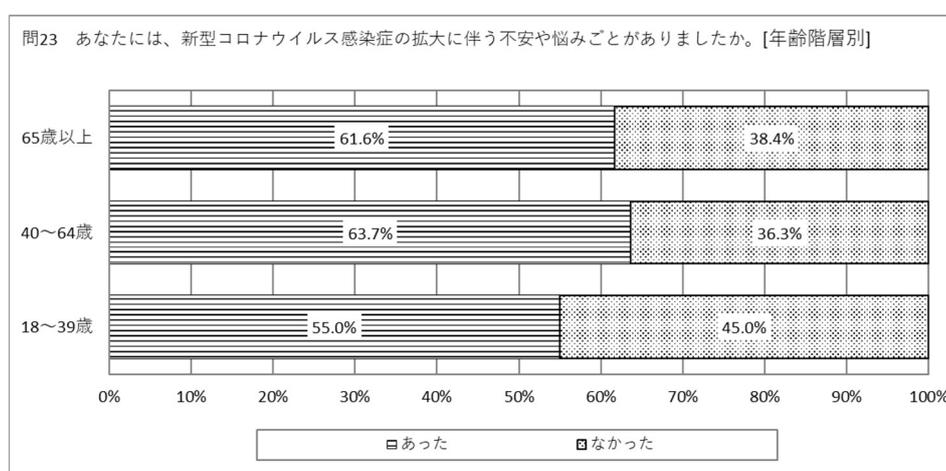
n. s

・年齢階層別にみても、あまり違いは見られませんでした。新型コロナウイルス感染症拡大以降の暮らしの変化は、どの年齢層もおおよそ同じように感じているようです。

問23 あなたには、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う不安や悩みごとがありましたか。

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う不安や悩みごとの有無			
	度数	有効パーセント	累積パーセント
あった	956	61.4	61.4
なかった	600	38.6	100.0
合計	1556	100.0	
無回答	80		
合計	1636		

・新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う不安や悩みごとの有無について尋ねたところ、「あった」という回答者が6割を超えました(61.4%)。



n. s

・年齢階層別での違いはあまり見られませんでした。が、壮年層で「あった」と答えた人の割合がわずかに高くなっていました(63.7%)。

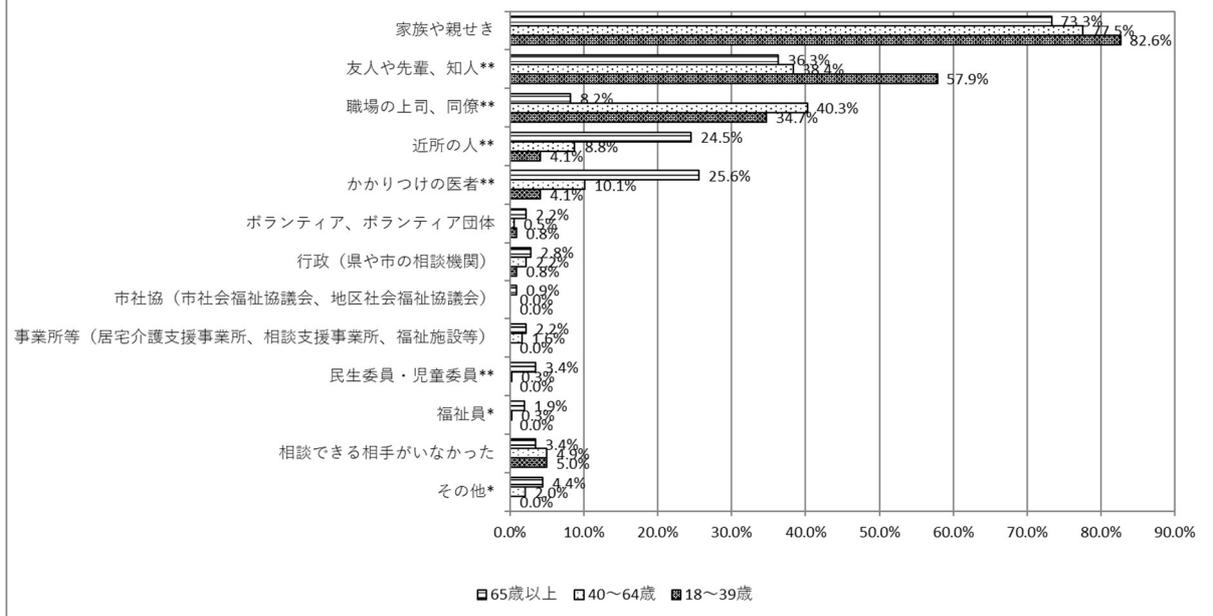
付問 23-1 問 23 で「1. あった」と回答した方にお尋ねします。その不安や悩みごとを誰に相談しましたか。当てはまるものすべてに○をつけてください。

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う不安や悩みごとの相談相手		
家族や親せき	度数	724
	%	76.1
友人や先輩、知人	度数	379
	%	39.9
職場の上司、同僚	度数	227
	%	23.9
近所の人	度数	151
	%	15.9
かかりつけの医者	度数	161
	%	16.9
ボランティア、ボランティア団体	度数	13
	%	1.4
行政（県や市の相談機関）	度数	22
	%	2.3
市社協（市社会福祉協議会、地区社会福祉協議会）	度数	4
	%	0.4
事業所等（居宅介護支援事業所、相談支援事業所、福祉施設等）	度数	16
	%	1.7
民生委員・児童委員	度数	17
	%	1.8
福祉員	度数	10
	%	1.1
相談できる相手がいなかった	度数	40
	%	4.2
その他	度数	30
	%	2.9

・新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う不安や悩みごとが「あった」という回答者に、その相談相手を尋ねました。最も多くの回答者が選んだのは、「家族や親せき」(76.1%)であり、次いで、「友人や先輩、知人」(39.9%)、「職場の上司、同僚」(23.9%)の順でした。家族や友人といったインフォーマルな関係にある相手に対して、相談が行われたことがわかります。

・一方で、「市社協(市社会福祉協議会、地区社会福祉協議会)」(0.4%)、「事業所等(居宅介護支援事業所、相談支援事業所、福祉施設等)」(1.7%)といった福祉専門機関を選んだ人は少数に留まりました。

付問23-1 その不安や悩みごとを誰に相談しましたか。(複数回答) [年齢階層別]



* P<.05 ** P<.01

・年齢階層別にみると、相談相手として「友人や先輩、知人」を挙げた人は、青年層で6割近く(57.9%)となりました。また、「職場の上司、同僚」は、壮年層(40.3%)と青年層(34.7%)で多く選ばれました。青年層や壮年層では、家族のほかは、友人や職場の人が相談相手とされていることがわかります。

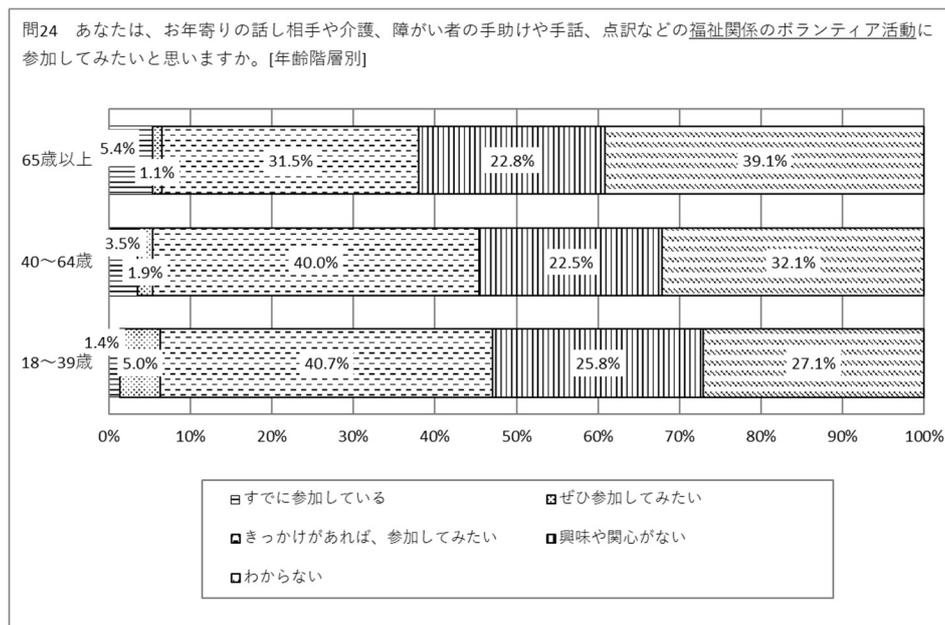
・一方、他の年齢層と比べ高齢層に選ばれた割合が高かったのは、「近所の人」(24.5%)、「かかりつけの医者」(25.6%)、民生委員・児童委員(3.4%)、福祉員(1.9%)でした。高齢層は、他の年齢層よりも、地域の人を相談相手として選ぶ割合が高いことがわかります。

・「相談できる相手がいなかった」という回答は、どの年齢層でも、わずかに認められました(高齢層3.4%、壮年層4.9%、青年層5.0%)。

問 24 あなたは、お年寄りの話し相手や介護、障がい者の手助けや手話、点訳などの福祉関係のボランティア活動に参加してみたいと思いますか。

福祉関係のボランティア活動への参加意欲			
	度数	有効パーセント	累積パーセント
すでに参加している	62	4.1	4.1
ぜひ参加してみたい	30	2.0	6.1
きっかけがあれば、参加してみたい	547	36.1	42.1
興味や関心がない	351	23.1	65.3
わからない	527	34.7	100.0
合計	1517	100.0	
無回答	119		
合計	1636		

・福祉関係のボランティア活動への参加に限定して尋ねたところ、「すでに参加している」という回答者は 4.1%にとどまりました。一方、現在参加していないが参加を希望する人（「ぜひ参加してみたい」、「きっかけがあれば、参加してみたい」との合計）は、4 割弱（38.1%）となりました。このことから、参加を希望する人を呼び込むための工夫が求められることがわかります。また、「わからない」という回答者も 3 割強（34.7%）認められました。これらの傾向は前回 2017 年調査と同様であり、大きな変化はありませんでした。



P<.01

・年齢階層別にみると、「すでに参加している」人の割合は、いずれの年齢階層でも低い割合にとどまっていますが、高齢層（5.4%）、壮年層（3.5%）で、青年層（1.4%）よりもわずかに高くなっていることがわかります。

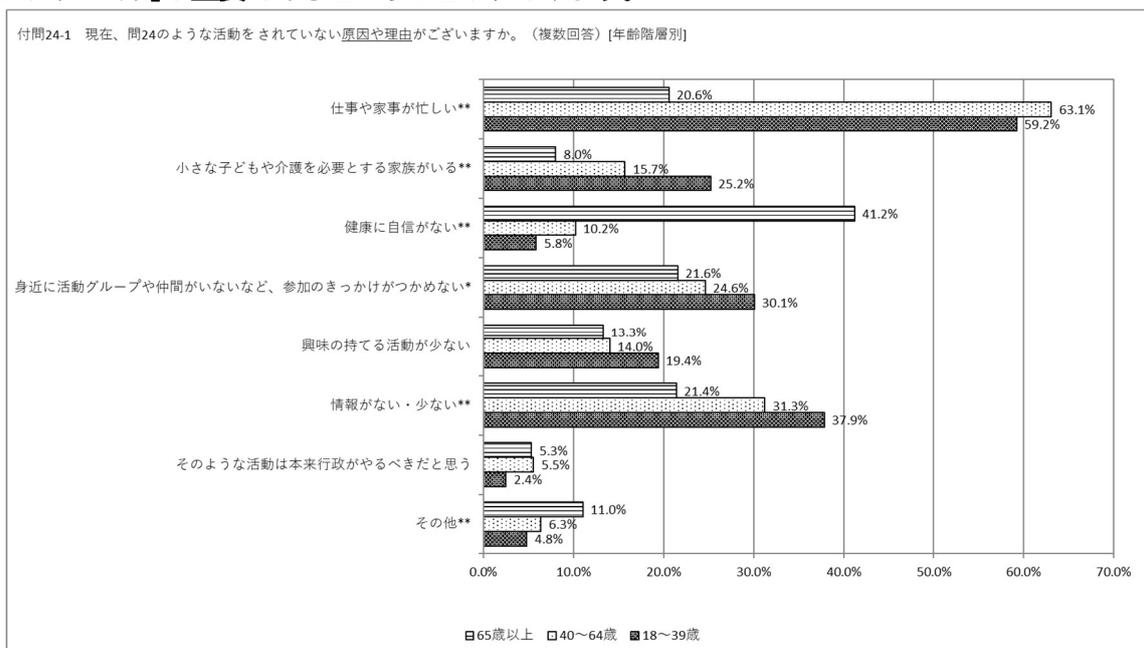
・一方、参加を希望する人（「ぜひ参加してみたい」、「きっかけがあれば、参加してみたい」との合計）は青年層で最も多く（45.7%）、より若い世代に向けたボランティア参加のきっかけづくりが重要であると言えるでしょう。

・どの世代においても活動参加について「興味や関心がない」人も一定数存在しており、その割合は青年層では 25.8%に達しています。より幅広い世代の人々にボランティア活動に参加してもらうためには、活動参加のきっかけづくりに加え、ボランティア活動についてのより積極的な情報提供や、重要性のアピールが必要になるのではないのでしょうか。

付問 24-1 問 24 で「2~5」と答えられた方にお聞きます。現在、問 24 のような活動をされていない原因や理由がございませうか。(○はいくつでも)

福祉関係のボランティア活動に参加していない原因や理由		
仕事や家事が忙しい	度数	584
	%	42.9
小さな子どもや介護を必要とする家族がいる	度数	185
	%	13.6
健康に自信がない	度数	324
	%	23.8
身近に活動グループや仲間がないなど、参加のきっかけがつかめない	度数	327
	%	24.0
興味を持てる活動が少ない	度数	197
	%	14.5
情報が少ない・少ない	度数	377
	%	27.7
そのような活動は本来行政がやるべきだと思う	度数	67
	%	4.9
その他	度数	115
	%	8.3

・福祉関係のボランティア活動に参加していない人に、その原因や理由を尋ねたところ、最も多くの回答者が選んだのは、「仕事や家事が忙しい」(42.9%)でした。次いで、「情報が少ない・少ない」(27.7%)、「身近に活動グループや仲間がないなど、参加のきっかけがつかめない」(24.0%)、「健康に自信がない」(23.8%)の順でした。このことから、「時間の確保」、「情報提供」、「仲間づくり・きっかけづくり」が重要であるということがわかります。



* P<.05 ** P<.01

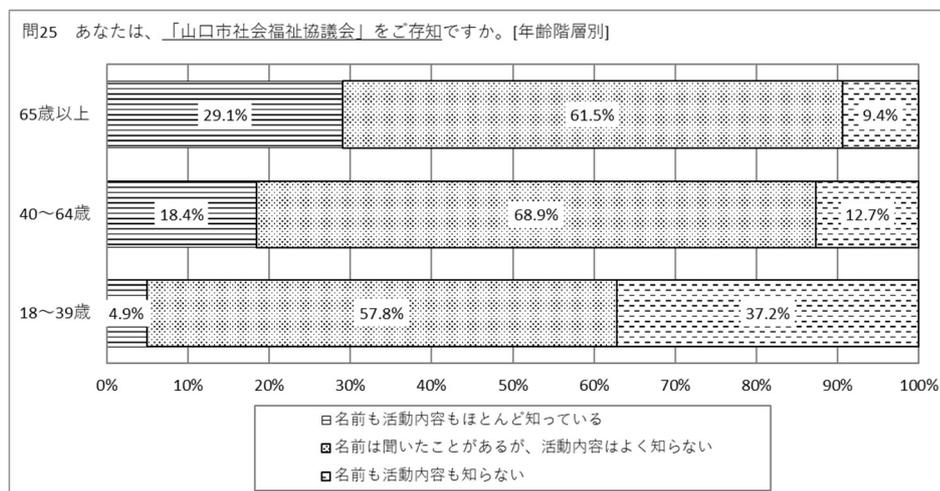
・年齢階層別に比較してみると、青年層、壮年層といったより若い世代で、「仕事や家事が忙しい」、「情報がない・少ない」といった項目について回答の割合が高くなっていることがわかります。これらの世代は、仕事や家事の負担などを抱えている方が多く、時間的な制約があるものの、「情報提供」における課題を解消することで、より多くの人々に活動へ参加してもらおうことができるのではないのでしょうか。

問 25 あなたは、「山口市社会福祉協議会」をご存知ですか。

山口市社会福祉協議会の認知度			
	度数	有効パーセント	累積パーセント
名前も活動内容もほとんど知っている	351	21.8	21.8
名前は聞いたことがあるが、活動内容はよく知らない	1024	63.7	85.5
名前も活動内容も知らない	233	14.5	100.0
合計	1608	100.0	
無回答	28		
合計	1636		

・山口市社会福祉協議会の認知度（「名前も活動内容もほとんど知っている」、「名前は聞いたことがあるが、活動内容はよく知らない」との合計）は、約 8 割強（計 85.5%）に達しています。しかし、「名前も活動内容もほとんど知っている」という回答者は約 2 割（21.8%）に留まっています。

・認知度を過去の調査と比較すると、2013 年調査、2017 年調査より増加しています（2013 年調査 75.2%→2017 年調査 75.2%）。



P<.01

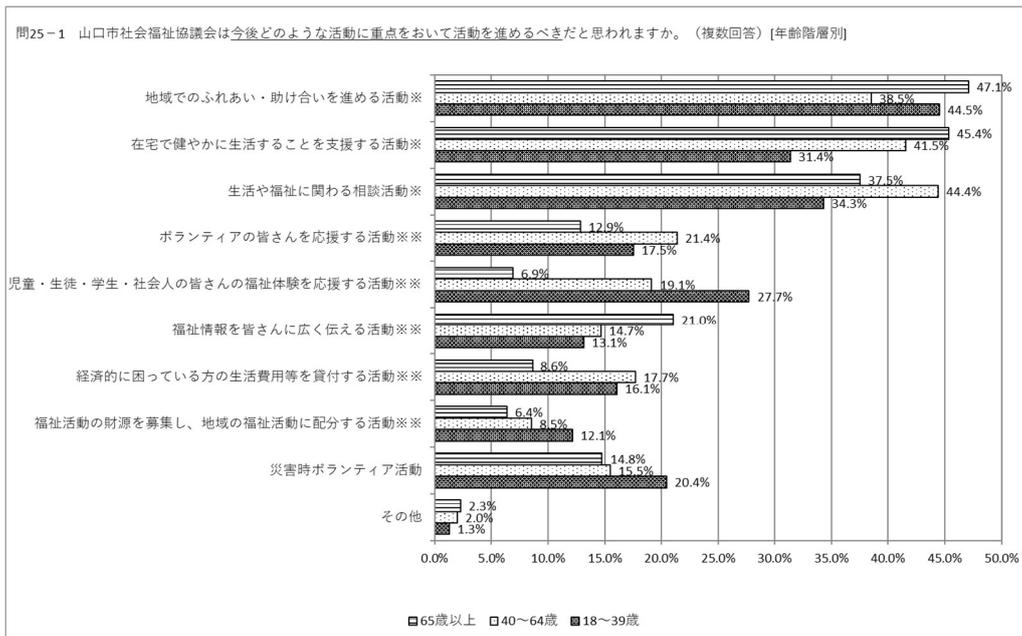
・年齢階層別では、「名前も活動内容もほとんど知っている」人が、高齢層では約3割（29.1%）である一方、青年層では「名前も活動内容も知らない」人が 4 割弱（37.2%）と、若い年代で認知度が低くなっています。

付問 25-1 問 25 で「1」または「2」と答えられた方にお聞きします。山口市社会福祉協議会は今後どのような活動に重点をおいて活動を進めるべきだと思いますか。(〇は3つまで ※1つでも2つでも構いません。)

山口市社会福祉協議会が重点を置くべきだと思う活動		
地域でのふれあい・助け合いを進める活動	度数	550
	%	43.5
在宅で健やかに生活することを支援する活動	度数	536
	%	42.4
生活や福祉に関わる相談活動	度数	504
	%	39.8
ボランティアの皆さんを応援する活動	度数	211
	%	16.7
児童・生徒・学生・社会人の皆さんの福祉体験を応援する活動	度数	176
	%	13.9
福祉情報を皆さんに広く伝える活動	度数	224
	%	17.7
経済的に困っている方の生活費用等を貸付する活動	度数	164
	%	13.0
福祉活動の財源を募集し、地域の福祉活動に配分する活動	度数	107
	%	8.5
災害時ボランティア活動	度数	198
	%	15.7
その他	度数	27
	%	2.1

・山口市社会福祉協議会が今後重点をおいて進めるべき活動としては、「地域でのふれあい・助け合いを進める活動」(43.5%)、「在宅で健やかに生活することを支援する活動」(42.4%)、「生活や福祉に関わる相談活動」(39.8%)が多くの支持を集めました。前回調査と比較しても、その順位、割合とも大きな変化はありませんでした。一方、「福祉活動の財源を募集し、地域の福祉活動に配分する活動」(8.5%)、「経済的に困っている方の生活費用等を貸付する活動」(13.0%)、「児童・生徒・学生・社会人の皆さんの福祉体験を応援する活動」(13.9%)はあまり支持を得ませんでした。

・今後進めて欲しい活動を自由記述で確認したところ、社会福祉協議会の認知度を高めて活動内容などの情報発信を推進すること、見守り活動などの地域福祉活動の一層の充実を図ること、認知症の当事者や家族の支援、自動車が運転できなくなった際の移動支援、買い物支援などの高齢者支援を行うこと、さらに障がい者への支援の充実、子ども食堂支援といった子どもに対する活動の充実なども求められていました。



* P<.05 ** P<.01

・年齢階層別に比較すると、「生活や福祉に関わる相談活動」に重点をおくべきとする割合が壮年層で高い割合(44.4%)となっていることがわかります。壮年層においては親世代の介護や自身の老後の生活についての相談ニーズが高いことがうかがわれます。

・「地域でのふれあい・助け合いを進める活動」は、高齢層(47.1%)と青年層(44.5%)では最も多く支持されており、地域でのつながりづくりが求められています。

付問 25-2 問 25 で「1」または「2」と答えられた方にお聞きします。今後、山口市社会福祉協議会に進めて欲しい活動がございましたら、ご自由にご記入ください。

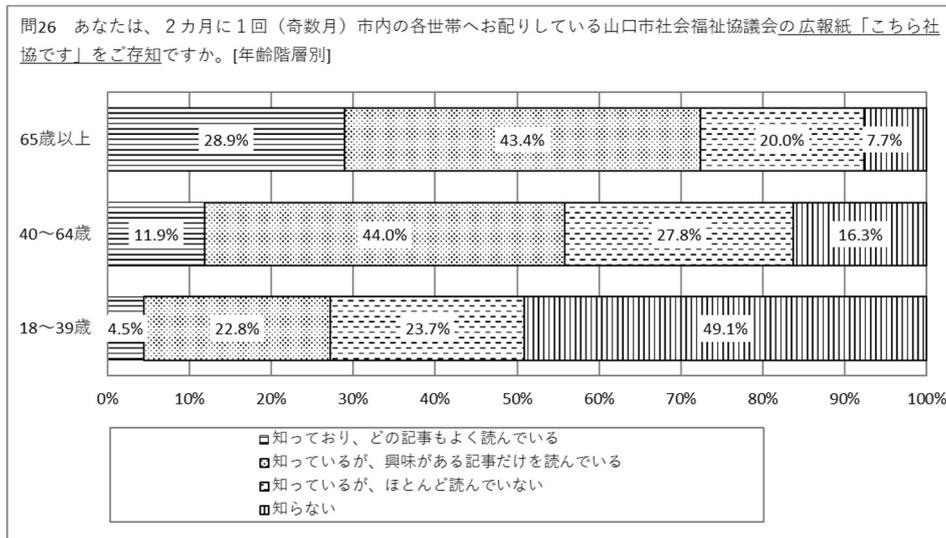
*別途掲載

問 26 あなたは、2カ月に1回(奇数月)市内の各世帯へお配りしている山口市社会福祉協議会の広報紙「こちら社協です」をご存知ですか。

山口市社会福祉協議会広報紙「こちら社協です」の認知度			
	度数	有効パーセント	累積パーセント
知っており、どの記事もよく読んでいる	305	19.2	19.2
知っているが、興味がある記事だけを読んでいる	646	40.7	59.9
知っているが、ほとんど読んでいない	371	23.4	83.3
知らない	265	16.7	100.0
合計	1587	100.0	
無回答	49		
合計	1636		

・山口市社会福祉協議会の広報紙「こちら社協です」の認知度(「知っており、どの記事もよく読んでいる」、「知っているが、興味がある記事だけを読んでいる」との合計)は、約6割(59.9%)となりました。前回調査では、5割強(54.6%)でしたので、わずかに増加していることがわかります。

・一方、「知っているが、ほとんど読んでいない」という回答者が 2 割強(23.4%)を占め、広報誌を読みたいと思わせるような工夫が必要であることがうかがわれます。



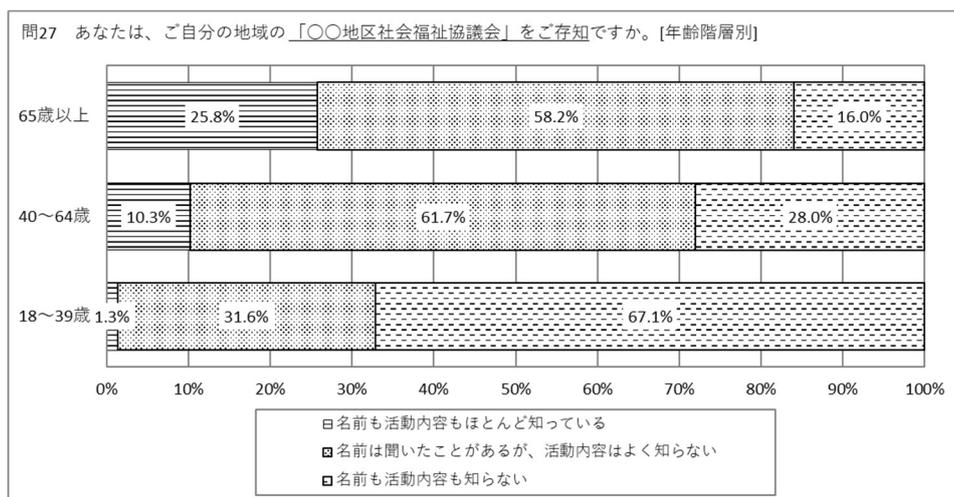
P<.01

・年齢階層別にみると、高齢層では「知っているが、どの記事もよく読んでいる」人、「知っているが、興味がある記事だけを読んでいる」人をあわせると約 7 割(72.3%)となっている一方で、青年層では「知らない」人の割合が 49.1%となっており、認知度には世代間で差があることがわかります。

問 27 小地域ごとに「地区社会福祉協議会」という団体があります。あなたは、ご自分の地域の「〇〇地区社会福祉協議会」をご存知ですか。

自分の地域の「〇〇地区社会福祉協議会」の認知度			
	度数	有効パーセント	累積パーセント
名前も活動内容もほとんど知っている	262	16.6	16.6
名前は聞いたことがあるが、活動内容はよく知らない	881	55.7	72.3
名前も活動内容も知らない	438	27.7	100.0
合計	1581	100.0	
無回答	55		
合計	1636		

・自分の地域の「〇〇地区社会福祉協議会」の認知度（「名前も活動内容もほとんど知っている」、「名前は聞いたことがあるが、活動内容はよく知らない」との合計）は、7 割強(72.3%)に達しています。しかし、「名前も活動内容もほとんど知っている」という回答者は 2 割弱(16.6%)に留まっています。認知度は市社協の約 8 割強(計 85.5%)に比較して低いものとなりましたが、過去の調査と比較すると、認知度は上昇傾向にあるといえます(2013 年調査 60.4%→2017 年調査 65.5%)。



P<.01

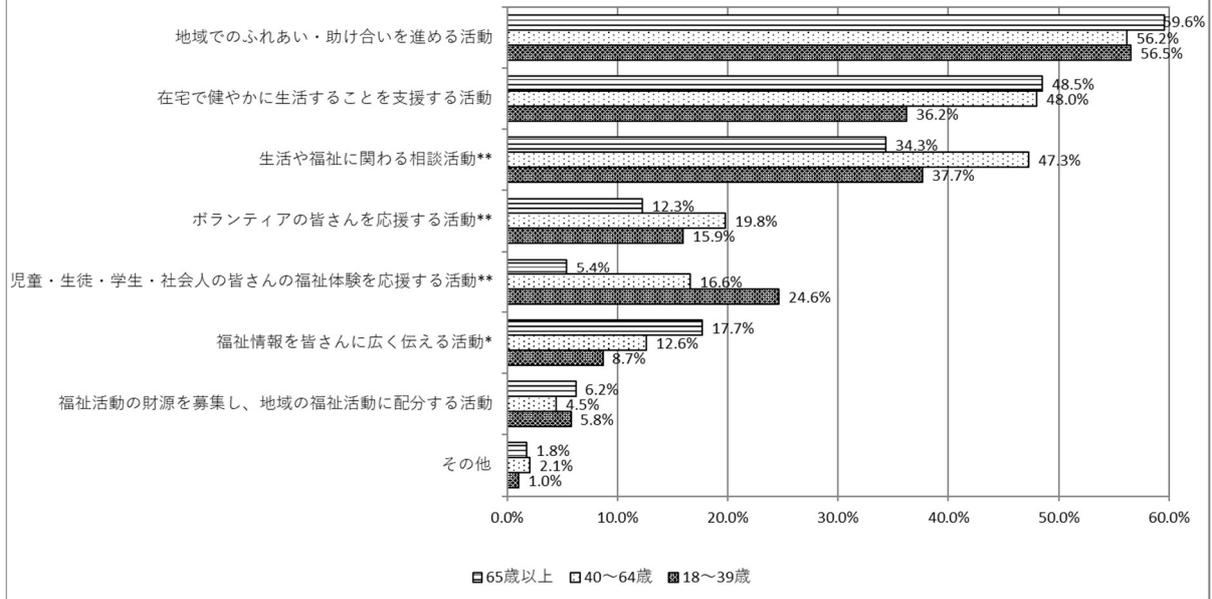
・年齢階層別では、「名前も活動内容もほとんど知っている」人が、高齢層では3割弱(25.8%)であるのに対し、青年層では「名前も活動内容も知らない」という人が7割弱(67.1%)と、若い年代で特に認知度が低くなっています。

付問 27-1 問 27 で「1」または「2」と答えられた方にお聞きます。〇〇地区社会福祉協議会は、今後どのような活動に重点をおいて活動を進めるべきだと思われますか。(〇は3つまで ※1つでも2つでも構いません。)

〇〇地区社会福祉協議会が重点を置くべきだと思う活動		
地域でのふれあい・助け合いを進める活動	度数	620
	%	58.1
在宅で健やかに生活することを支援する活動	度数	507
	%	47.5
生活や福祉に関わる相談活動	度数	421
	%	39.5
ボランティアの皆さんを応援する活動	度数	164
	%	15.4
児童・生徒・学生・社会人の皆さんの福祉体験を応援する活動	度数	116
	%	10.9
福祉情報を皆さんに広く伝える活動	度数	162
	%	15.2
福祉活動の財源を募集し、地域の福祉活動に配分する活動	度数	59
	%	5.5
その他	度数	21
	%	1.8

・〇〇地区社会福祉協議会が今後重点をおいて進めるべき活動としては、「地域でのふれあい・助け合いを進める活動」(58.1%)が最も多くの支持を集めました。次いで、「在宅で健やかに生活することを支援する活動」(47.5%)、「生活や福祉に関わる相談活動」(39.5%)となりました。前回調査と比較しても、その順位、割合とも大きな変化はありませんでした。

付問27-1 ○○地区社会福祉協議会は、今後どのような活動に重点をおいて活動を進めるべきだと思いますか。(○は3つまで※1つでも2つでも構いません。)[年齢階層別]



* P<.05 ** P<.01

・どの年齢階層においても、「地域でのふれあい・助け合いを進める活動」は最も多く支持されており(高齢層 59.6%、壮年層 56.2%、青年層 56.5%)、地区社会福祉協議会には、地域での相互支援活動を展開していくことが期待されています。

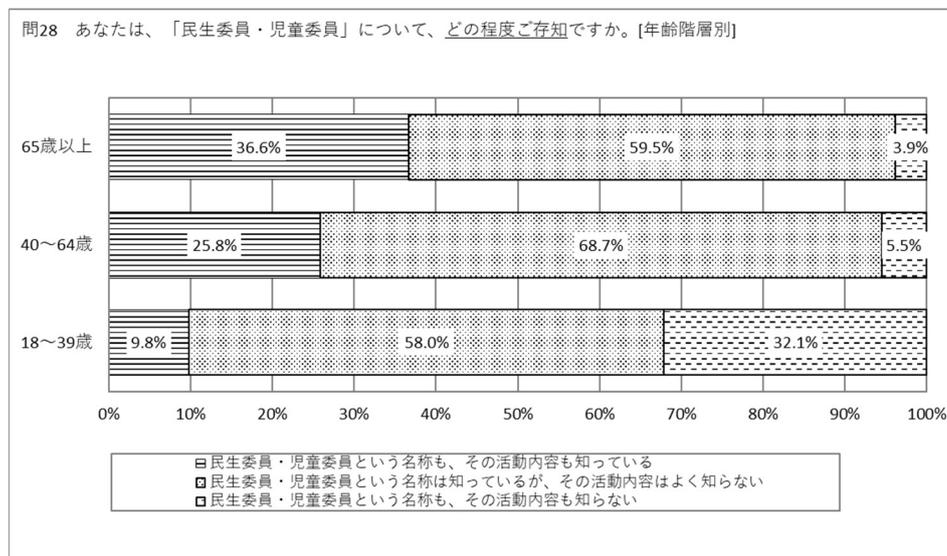
・「在宅で健やかに生活することを支援する活動」は、高齢層(48.5%)、壮年層(48.0%)で多く支持されており、より高い年齢層で、老後の在宅支援の必要性が強く感じられていることがわかります。

・「生活や福祉に関わる相談活動」に重点をおくべきとする割合が、壮年層で高い割合(47.3%)となっていることがわかります。壮年層においては親世代の介護や自身の老後の生活などについての相談ニーズが高いことが、ここでもうかがわれます。

問 28 あなたは、「民生委員・児童委員」について、どの程度ご存知ですか。

民生委員・児童委員の認知度			
	度数	有効パーセント	累積パーセント
民生委員・児童委員という名称も、その活動内容も知っている	455	28.8	28.8
民生委員・児童委員という名称は知っているが、その活動内容はよく知らない	990	62.7	91.5
民生委員・児童委員という名称も、その活動内容も知らない	134	8.5	100.0
合計	1579	100.0	
無回答	57		
合計	1636		

・民生委員・児童委員の認知度(「民生委員・児童委員という名称も、その活動内容も知っている」、「民生委員・児童委員という名称は知っているが、その活動内容はよく知らない」との合計)は、9 割(計 91.5%)を超える高い割合となりました。しかし、「民生委員・児童委員という名称も、その活動内容も知っている」という回答者は 3 割弱(28.8%)に留まっています。



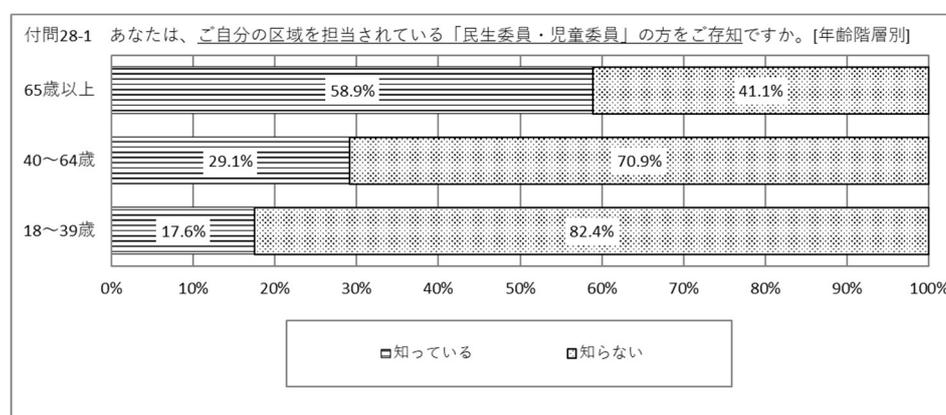
P<.01

・年齢階層別では、「民生委員・児童委員という名称も、その活動内容も知っている」という人が、高齢層では 4 割弱(36.6%)であるのに対し、青年層では「民生委員・児童委員という名称も、その活動内容も知らない」という人が 3 割強(32.1%)と、若い年代で認知度が低くなっています。

付問 28-1 問 28 で「1」または「2」と答えられた方にお聞きします。あなたは、ご自分の区域を担当されている「民生委員・児童委員」の方をご存知ですか。

自分の区域担当の民生委員・児童委員の認知度			
	度数	有効パーセント	累積パーセント
知っている	607	43.0	43.0
知らない	803	57.0	100.0
合計	1410	100.0	
無回答	226		
合計	1636		

・自分の区域を担当する民生委員・児童委員の認知度は 4 割強(43.0%)に留まり、「知らない」という回答者の割合を下回りました。前回調査と比較しても、大きな変化はありませんでした。



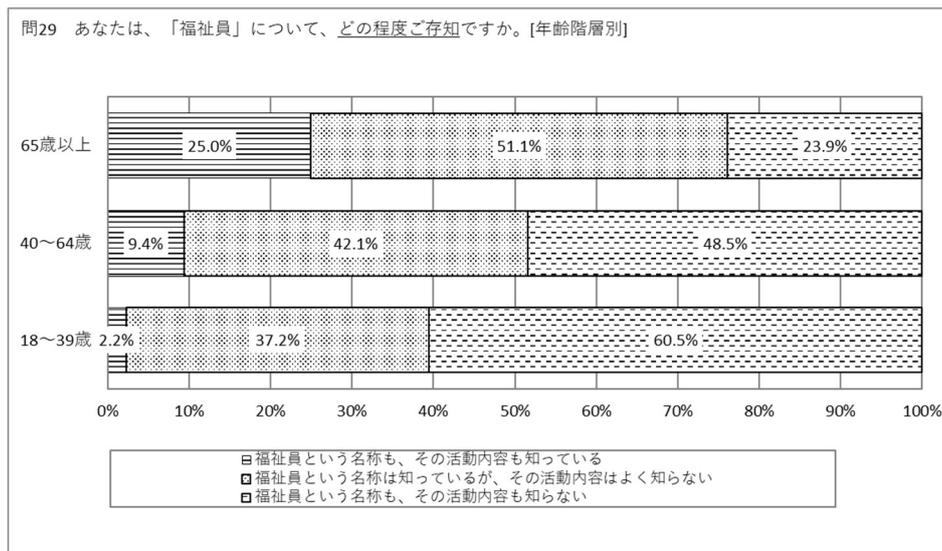
P<.01

・年齢階層別では、「知っている」という人が、高齢層では 6 割弱(58.9%)であるのに対し、「知らない」という人が、壮年層では約 7 割(70.9%)、青年層では 8 割強(82.4%)と、より若い年齢層で認知度が低くなっています。

問 29 あなたは、「福祉員」について、どの程度ご存知ですか。

福祉員の認知度			
	度数	有効パーセント	累積パーセント
福祉員という名称も、その活動内容も知っている	250	15.9	15.9
福祉員という名称は知っているが、その活動内容はよく知らない	718	45.8	61.7
福祉員という名称も、その活動内容も知らない	600	38.3	100.0
合計	1568	100.0	
無回答	68		
合計	1636		

・福祉員の認知度(「福祉員という名称も、その活動内容も知っている」、「福祉員という名称は知っているが、その活動内容はよく知らない」との合計)は、6 割強(61.7%)となりました。しかし、「福祉員という名称も、その活動内容も知っている」という回答者は、約 1 割半(15.9%)に留まっています。前回調査と比較すると、認知度はわずかに上昇しました(2017年調査 57.0%)。



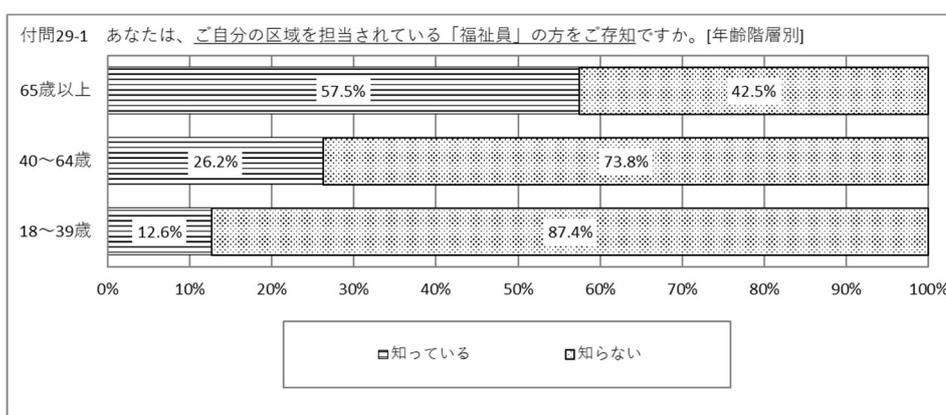
P<.01

・年齢階層別では、「福祉員という名称も、その活動内容も知っている」という人が、高齢層では 2 割半 (25.0%) であるのに対し、「福祉員という名称も、その活動内容も知らない」という人が、壮年層で 5 割弱(48.5%)、青年層で約 6 割(60.5%)と、より若い年代で認知度が低くなっています。

付問 29-1 問 29 で「1」または「2」と答えられた方にお聞きします。あなたは、ご自分の区域を担当されている「福祉員」の方をご存知ですか。

自分の区域担当の福祉員の認知度			
	度数	有効パーセント	累積パーセント
知っている	417	43.6	43.6
知らない	540	56.4	100.0
合計	957	100.0	
無回答	679		
合計	1636		

・自分の区域を担当する福祉員の認知度は 4 割強(43.6%)に留まり、「知らない」という回答者の割合を下回りました。前回調査と比較しても、大きな変化はありませんでした。



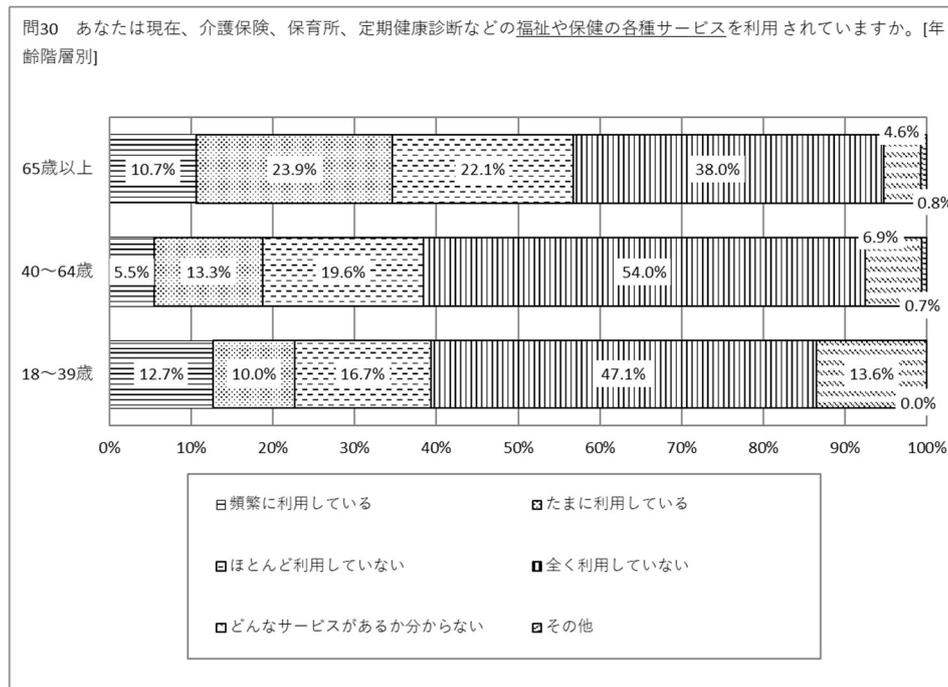
P<.01

・年齢階層別では、「知っている」という人が、高齢層では 6 割弱(57.5%)であるのに対し、「知らない」という人が、壮年層では 7 割強(73.8%)、青年層では 9 割弱(87.4%)と、より若い年齢層で認知度が低くなっています。

問 30 あなたは現在、介護保険、保育所、定期健康診断などの福祉や保健の各種サービスを利用されていますか。

福祉や保健の各種サービスの利用状況			
	度数	有効パーセント	累積パーセント
頻繁に利用している	142	9.0	9.0
たまに利用している	283	18.0	27.1
ほとんど利用していない	321	20.4	47.5
全く利用していない	710	45.2	92.7
どんなサービスがあるか分からない	105	6.7	99.4
その他	10	0.6	100.0
合計	1571	100.0	
無回答	65		
合計	1636		

・福祉や保健の各種サービスの利用状況について尋ねると、利用者層(「頻繁に利用している」、「たまに利用している」との合計)は 3 割弱(27.1%)に留まり、非利用者層(「全く利用していない」、「ほとんど利用していない」との合計)が約 6 割半(65.6%)を占めました。また、「どんなサービスがあるか分からない」という回答者(6.7%)もわずかですが認められました。なお、利用者層は、有効パーセントの合計としては 27.0%となりますが、累積パーセントは端数処理のため 27.1%となります。



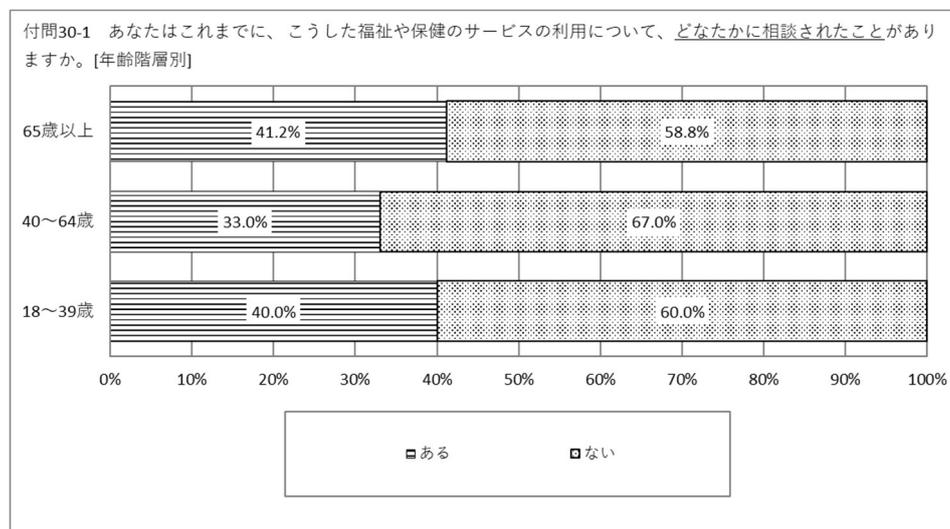
P<.01

・年齢階層別では利用者層(「頻繁に利用している」と「たまに利用している」との合計)の割合は、青年層 22.7%、壮年層 18.8%、高齢層 34.6%となり、高齢層で利用頻度が高いことがわかりました。「どんなサービスがあるか分からない」という回答について注目すると、他の年齢層にくらべ青年層で回答割合が高くなりました(青年層 13.6%、壮年層 6.9%、高齢層 4.6%)。

付問 30-1 問 30 で「1」または「2」と答えられた方にお聞きします。あなたはこれまでに、こうした福祉や保健のサービスの利用について、どなたかに相談されたことがありますか。

福祉や保健のサービスの利用についての相談経験			
	度数	有効パーセント	累積パーセント
ある	161	38.9	38.9
ない	253	61.1	100.0
合計	414	100.0	
無回答	1222		
合計	1636		

・福祉や保健のサービスの利用者層に、利用についての相談経験について尋ねたところ、「ある」という回答者は4割弱(38.9%)となり、「ない」という回答者の割合を下回りました。前回調査と比較しても、大きな変化はありませんでした。



n. s

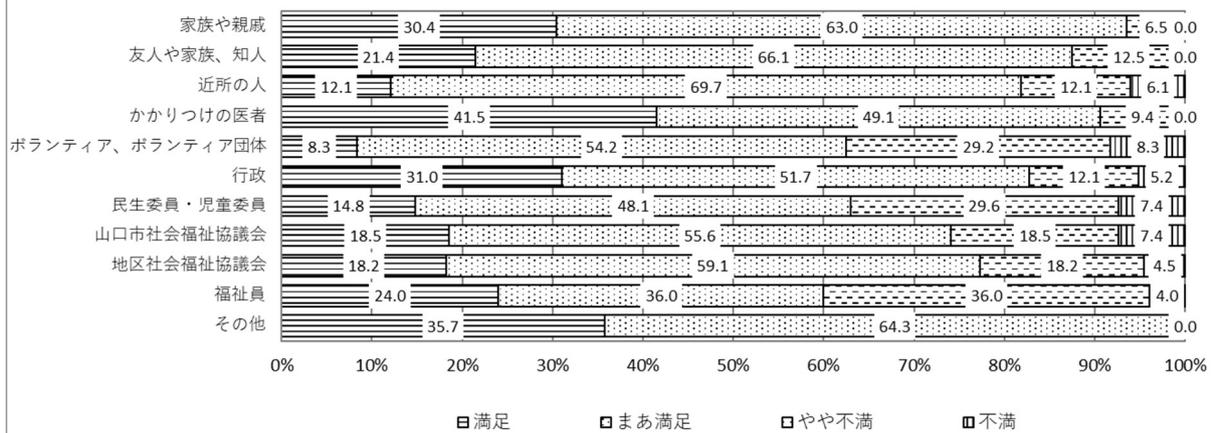
・年齢階層別での違いはあまり見られませんでした。が、「ある」と答えた人は、高齢層(41.2%)と青年層(40.0%)でわずかに多くなっていました。

付問 30-2 付問 30-1 で「1. ある」と答えられた方にお聞きします。それは誰に相談をされましたか。また、相談されたときの満足度はいかがでしたか。

福祉や保健のサービスの利用についての相談相手		
家族や親戚	度数	92
	%	57.1
友人や先輩、知人	度数	56
	%	34.8
近所の人	度数	33
	%	20.5
かかりつけの医者	度数	53
	%	32.9
ボランティア、ボランティア団体	度数	24
	%	14.9
行政	度数	58
	%	36.0
民生委員・児童委員	度数	27
	%	16.8
山口市社会福祉協議会	度数	27
	%	16.8
地区社会福祉協議会	度数	22
	%	13.7
福祉員	度数	25
	%	15.5
その他	度数	14
	%	8.7

福祉や保健のサービスの利用について相談したときの満足度					
		満足	まあ満足	やや不満	不満
家族や親戚	度数	28	58	6	0
	%	30.4	63.0	6.5	0.0
友人や先輩、知人	度数	12	37	7	0
	%	21.4	66.1	12.5	0.0
近所の人	度数	4	23	4	2
	%	12.1	69.7	12.1	6.1
かかりつけの医者	度数	22	26	5	0
	%	41.5	49.1	9.4	0.0
ボランティア、ボランティア団体	度数	2	13	7	2
	%	8.3	54.2	29.2	8.3
行政	度数	18	30	7	3
	%	31.0	51.7	12.1	5.2
民生委員・児童委員	度数	4	13	8	2
	%	14.8	48.1	29.6	7.4
山口市社会福祉協議会	度数	5	15	5	2
	%	18.5	55.6	18.5	7.4
地区社会福祉協議会	度数	4	13	4	1
	%	18.2	59.1	18.2	4.5
福祉員	度数	6	9	9	1
	%	24.0	36.0	36.0	4.0
その他	度数	5	9	0	0
	%	35.7	64.3	0.0	0.0

付問30-2 相談されたときの満足度はいかがでしたか。



・福祉や保健のサービスの利用についての相談経験がある人に、その相談相手と、相談した際の満足度について尋ねたところ、相談相手として最も多くの回答者が選んだのは「家族や親戚」(57.1%)で、次いで「行政」(36.0%)、「友人や先輩、知人」(34.8%)、「かかりつけの医者」(32.9%)が挙げられました。

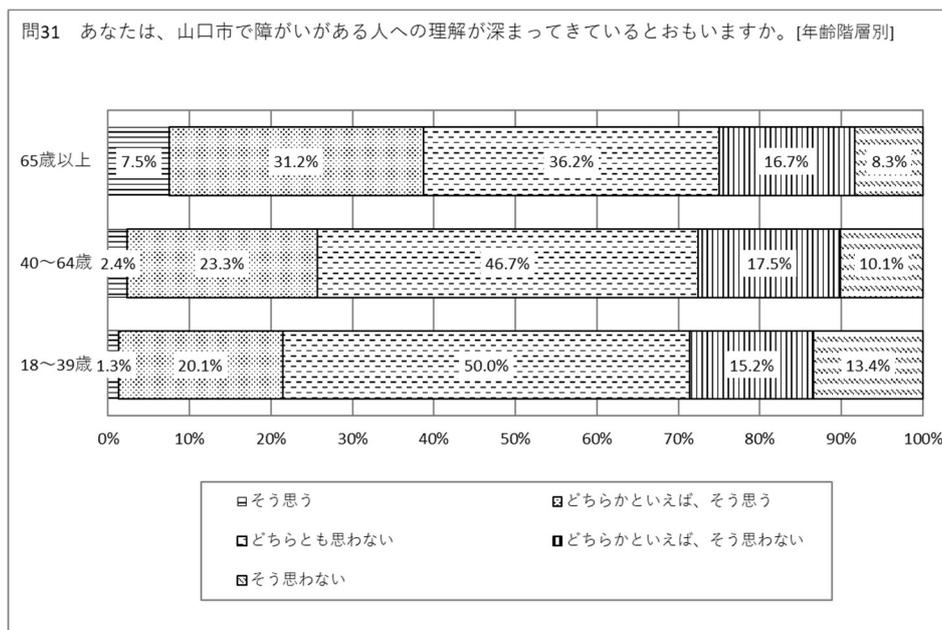
・満足度については、満足層(「満足」、「まあ満足」との合計)は、「その他」を除くと、「家族や親戚」(93.4%)で最も多く、次いで「かかりつけの医者」(90.6%)、「友人や先輩、知人」(87.5%)、行政(82.7%)の順でした。

・一方、これらと比較すると、相談相手として選んだ回答者は少ないものの、満足層は「近所の人」(81.8%)、「地区社会福祉協議会」(77.3%)、「山口市社会福祉協議会」(74.1%)で、いずれも7割を超えています。

問31 あなたは、山口市で障がいがある人への理解が深まってきていると思いますか。

山口市の障がいがある人への理解度			
	度数	有効パーセント	累積パーセント
そう思う	73	4.7	4.7
どちらかといえば、そう思う	413	26.6	31.3
どちらとも思わない	654	42.2	73.5
どちらかといえば、そう思わない	260	16.8	90.3
そう思わない	151	9.7	100.0
合計	1551	100.0	
無回答	85		
合計	1636		

・山口市における障がい者に対する理解度が深まっているかについて、「どちらとも思わない」が42.2%と最も多く、次いで「どちらかといえば、そう思う」(26.6%)、「どちらかといえば、そう思わない」(16.6%)の順でした。深まっていると判断(「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」との合計)した回答者の割合は、3割強(31.3%)に留まりました。前回調査でも深まっていると判断した回答者の割合は3割弱(28.7%)であり、ほとんど変化はありませんでした。



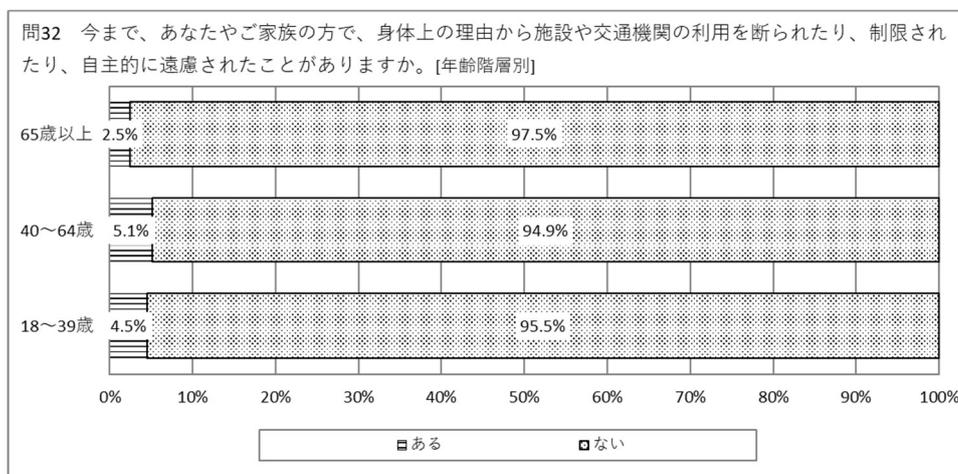
P<.01

・年齢階層別にみると、深まっていると判断(「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」との合計)した回答者の割合は、青年層で21.4%、壮年層で25.7%、高齢層で38.7%となり、年齢階層が上がるほど大きくなることがわかりました。

問 32 今まで、あなたやご家族の方で、身体上の理由から施設や交通機関の利用を断られたり、制限されたり、自主的に遠慮されたことがありますか。

身体上の理由で施設や交通機関の利用に支障が出た経験			
	度数	有効パーセント	累積パーセント
ある	58	3.8	3.8
ない	1485	96.2	100.0
合計	1543	100.0	
無回答	93		
合計	1636		

・回答者のほとんどが(96.2%)、自身や家族が、身体上の理由から施設や交通機関の利用に支障があったという経験が「ない」と回答しましたが、わずかながらそれを経験している人(3.8%)も認められました。この割合は、過去の調査から大きな変化はありませんでした。



P<.01

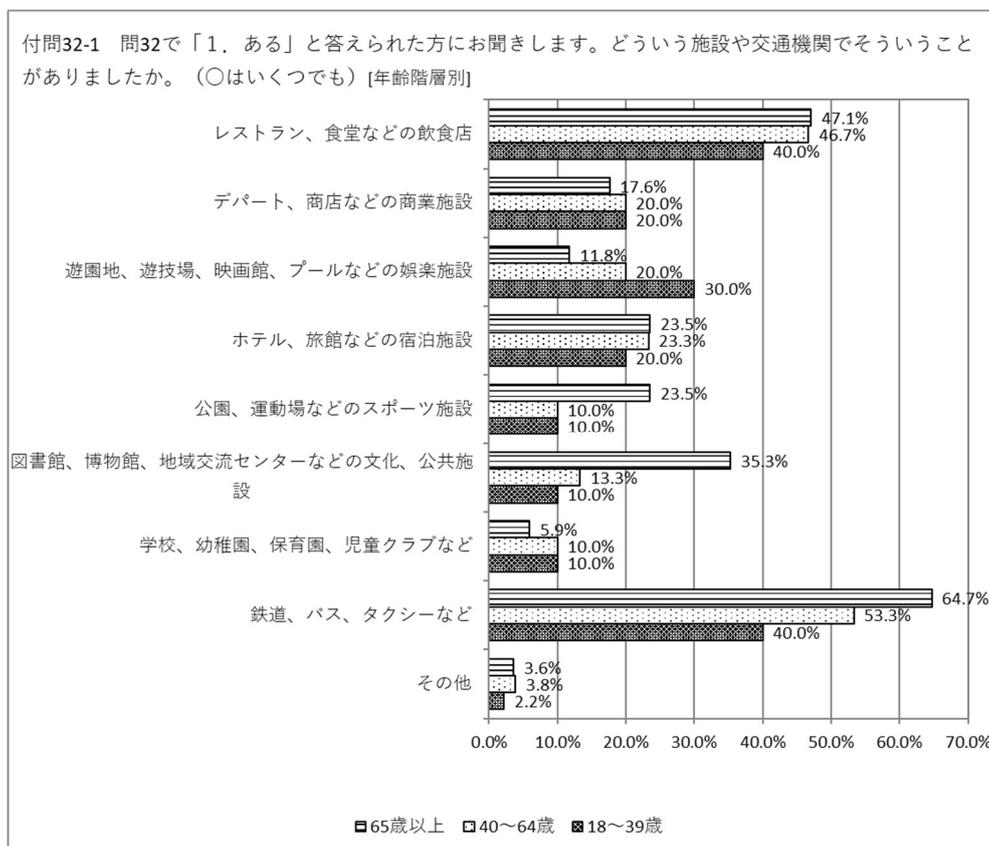
・年齢階層別にみると、壮年層において他の年齢層と比べて、身体上の理由から施設や交通機関の利用に支障があったという経験が「ある」と回答した人の割合(5.1%)がわずかながら大きいことがわかります。

付問 32-1 問 32 で「1. ある」と答えられた方にお聞きします。どういう施設や交通機関でそういう

身体上の理由で施設や交通機関の利用に支障が出た施設や交通機関		
レストラン、食堂などの飲食店	度数	26
	%	45.6
デパート、商店などの商業施設	度数	11
	%	19.3
遊園地、遊技場、映画館、プールなどの娯楽施設	度数	11
	%	19.3
ホテル、旅館などの宿泊施設	度数	13
	%	22.8
公園、運動場などのスポーツ施設	度数	8
	%	14.0
図書館、博物館、地域交流センターなどの文化、公共施設	度数	11
	%	19.3
学校、幼稚園、保育園、児童クラブなど	度数	5
	%	8.8
鉄道、バス、タクシーなど	度数	31
	%	54.4
その他	度数	8
	%	3.4

ことがありましたか。(〇はいくつでも)

・最も多かったのは「鉄道、バス、タクシーなど」の交通機関(54.4%)でした。次いで、「レストラン、食堂などの飲食店」(45.6%)でした。最も少なかったのは、「学校、幼稚園、保育園、児童クラブなど」(8.8%)でした。



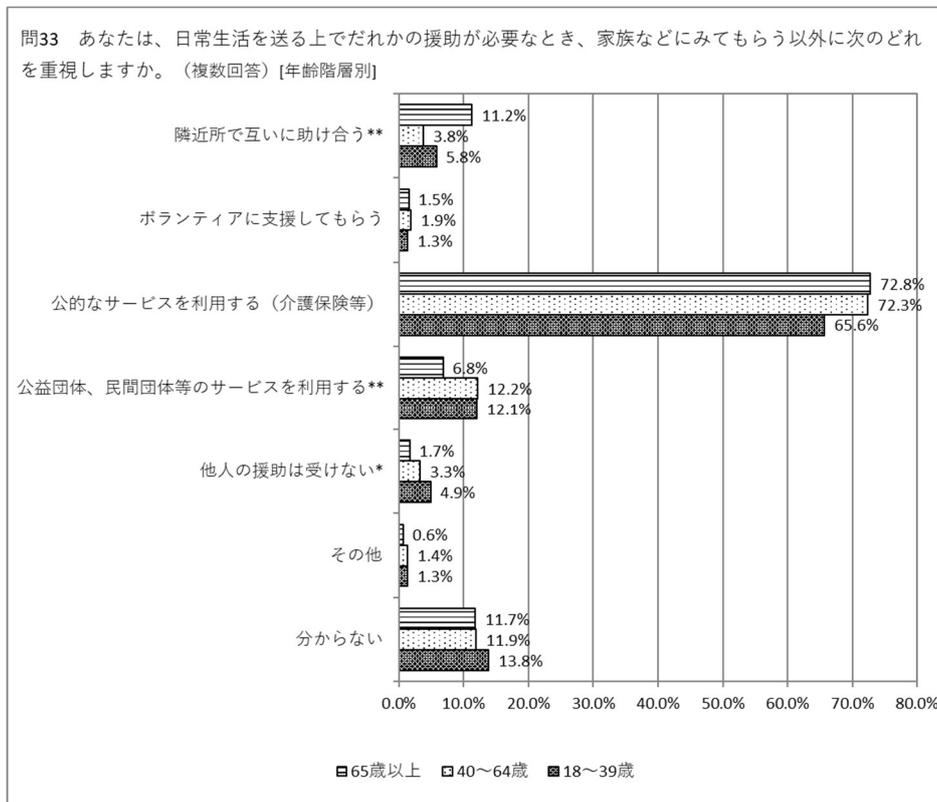
n.s.

・年齢階層別でみると、若い世代ほど「遊園地、遊戯場、映画館、プールなどの娯楽施設」を選択する割合が大きく、年齢階層の上の世代ほど「図書館、博物館、地域交流センターなどの文化、公共施設」を選択する割合が大きくなっています。世代間の差は、各世代の施設の利用頻度とも関係していると考えられます。また、どの世代においても「鉄道、バス、タクシーなど」の交通機関が最も多く選択されており、とりわけ高齢層では、6割以上(64.7%)の回答者が交通機関を選択していました。

問 33 あなたは、日常生活を送る上でだれかの援助が必要なおとき、家族などにみてもらふ以外に次のどれを重視しますか。

他者による援助の重要度		
隣近所で互いに助け合う	度数	122
	%	7.7
ボランティアに支援してもらう	度数	26
	%	1.6
公的なサービスを利用する（介護保険等）	度数	1133
	%	71.6
公益団体、民間団体等のサービスを利用する	度数	151
	%	9.5
他人の援助は受けない	度数	43
	%	2.7
その他	度数	16
	%	1.0
分からない	度数	191
	%	12.1

・日常生活における家族以外で重視する他者による援助を確認したところ、「公的なサービスを利用する（介護保険等）」が 71.6%と最も多く、回答が集中しました。前回調査ではその割合は、6割強(65.4%)でしたので、支持が増える傾向にあることがわかります。これ以外の「公益団体、民間団体等のサービスを利用する」、「隣近所で互いに助け合う」などは、1割を下回っており、「ボランティアに支援してもらう」が最も少ない結果となりました(1.6%)。



* P<.01 **P<.05

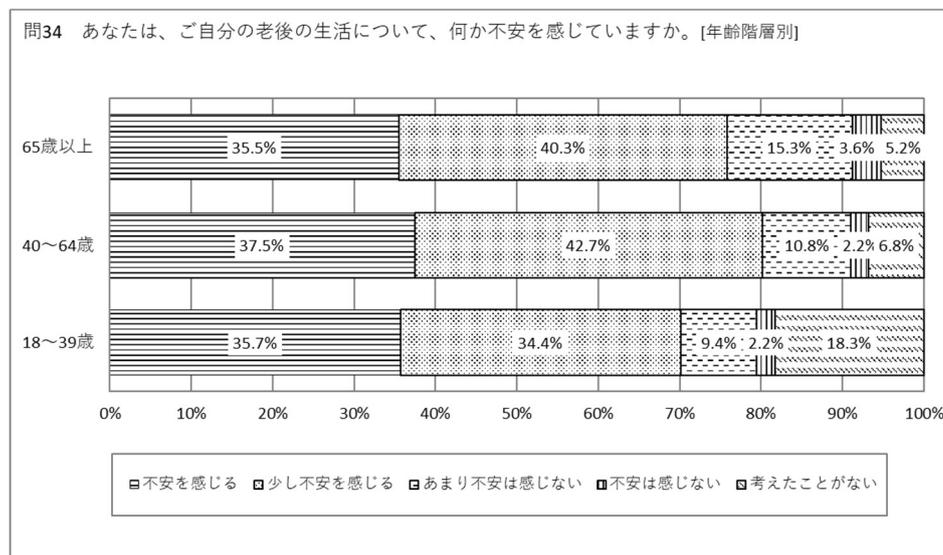
・年齢階層別でみると、どの世代でも「公的なサービスを利用する(介護保険等)」を支持する回答者の割合が最も大きいことがわかります。高齢層では、他の世代と比較して「公益団体、民間団体等のサービスを利用する」ことを重視した回答者の割合(6.8%)は小さかった一方で、「隣近所で互いに助け合う」ことを重視する回答者の割合(11.2%)が大きいことが確認されました。高齢層では、他世代と比較して、インフォーマルな関係性に基づく支援ニーズがあることがうかがえます。

・また、「他者の援助は受けない」ことを重視する回答者の割合は、わずかではありますが、若い世代ほど大きくなっていることもわかりました。

問 34 あなたは、ご自分の老後の生活について、何か不安を感じていますか。

老後の生活についての不安			
	度数	有効パーセント	累積パーセント
不安を感じる	579	36.3	36.3
少し不安を感じる	644	40.4	76.6
あまり不安は感じない	205	12.8	89.5
不安は感じない	46	2.9	92.4
考えたことがない	122	7.6	100.0
合計	1596	100.0	
無回答	40		
合計	1636		

・老後の生活についての不安を確認したところ、不安を感じている人(「不安を感じる」と「少し不安を感じる」の合計)があわせて7割(76.6%)を超えるという結果になりました。この割合は前回調査から大きな変化はありませんでした。なお、有効パーセントの合計は 76.7%となりますが、累積パーセントは端数処理のため 76.6%となります。



P<.01

・年齢階層別にみると、壮年層において老後の生活について不安を感じている人(「不安を感じる」と「少し不安を感じる」との合計)が多いことがわかりました。青年層(70.1%)、高齢層(75.8%)で不安を感じている人は約 7 割であるのに対し、壮年層では約 8 割(80.2%)に達しています。これから老後の生活が始まる壮年層は、高齢層や、高齢期に入るまでにまだ時間がある青年層に比べ不安を感じやすいものと思われます。ただ、壮年層に限らず、高齢層や青年層でも不安を感じている人は少なくないため、老後の生活を安心して送ることができるような社会の実現が望まれます。

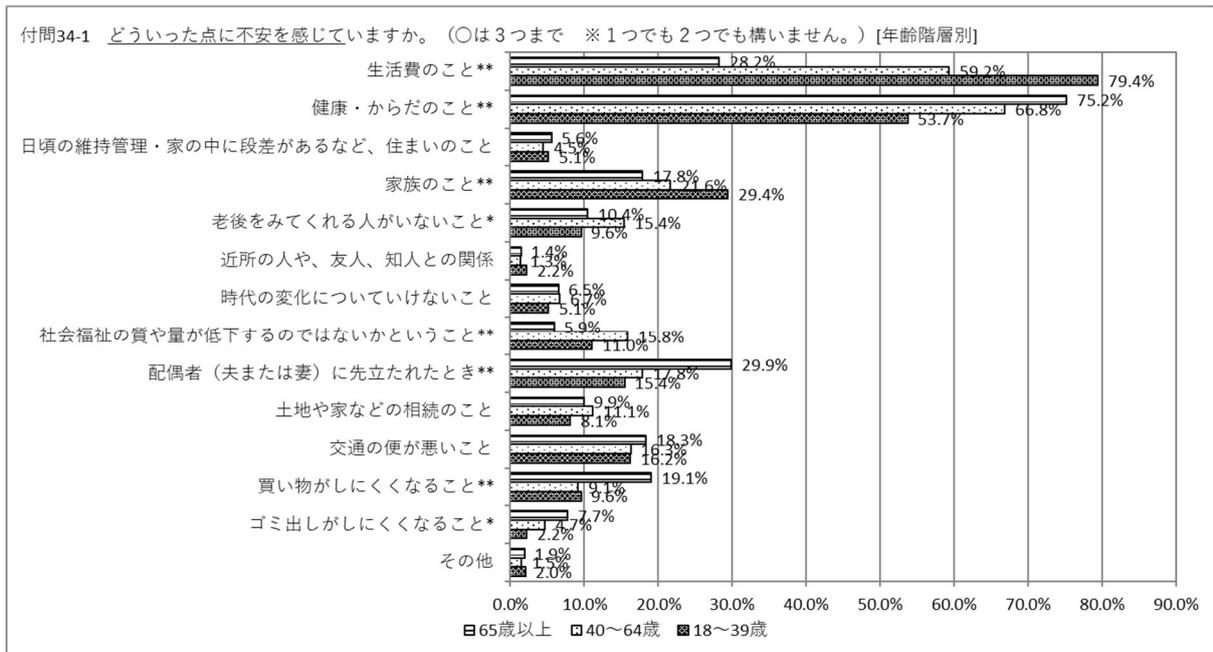
付問 34-1 問 34 で「1」または「2」と答えられた方にお聞きします。どういった点に不安を感じてい

老後の生活についての不安の内容		
生活費のこと	度数	531
	%	46.5
健康・からだのこと	度数	791
	%	69.3
日頃の維持管理・家の中に段差があるなど、住まいのこと	度数	58
	%	5.1
家族のこと	度数	236
	%	20.7
老後をみてくれる人がいないこと	度数	140
	%	12.3
近所の人や、友人、知人との関係	度数	17
	%	1.5
時代の変化についていけないこと	度数	73
	%	6.4
社会福祉の質や量が低下するのではないかとということ	度数	119
	%	10.4
配偶者（夫または妻）に先立たれたときのこと	度数	267
	%	23.4
土地や家などの相続のこと	度数	116
	%	10.2
交通の便が悪いこと	度数	197
	%	17.3
買い物がしにくくなること	度数	160
	%	14.0
ゴミ出しがしにくくなること	度数	67
	%	5.9
その他	度数	21
	%	1.8

ますか。(〇は3つまで※1つでも2つでも構いません。)

・老後の生活の不安について、その内容を確認したところ、「健康・からだのこと」(69.3%)が最も多く、「生活費のこと」(46.5%)が次いで多い結果となりました。前回調査と大きな変化はなく、健康と生活費(経済問題)の二つの面が大きな不安の要因となっていることがわかりました。これらに続いて、「配偶者(夫または妻)に先立たれたときのこと」(23.4%)、「家族のこと」(20.7%)といった家族に関する不安が挙げられています。

・一方で、「近所の人や、友人、知人の関係」(1.5%)、「日頃の維持管理・家の中に段差があるなど、住まいのこと」(5.1%)などは少なく、不安に思う人が少ないようでした。



* P<.01 **P<.05

・年齢階層別にみると、「健康・からだのこと」に関する老後の不安は、年齢階層が上がるにつれて増えています。青年層では5割程度(53.7%)ですが、高齢層では7割半に達しています(75.2%)。また、「配偶者(夫または妻)に先立たれた時のこと」という不安も、同様の傾向を示しています。

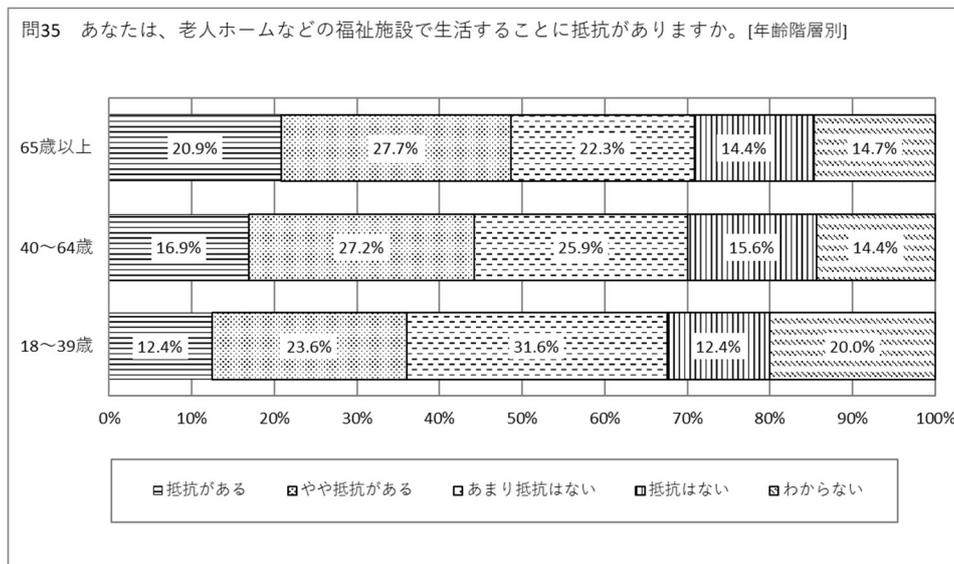
・一方、「生活費のこと」や「家族のこと」に関する不安は、年齢階層が低いほど割合が多くなっています。特に「生活費のこと」については、高齢層では約3割(28.2%)が不安を感じていることに対して、青年層では8割近く(79.4%)に達しており、青年層の不安が大きく、高齢層との顕著な差が見られます。

年齢階層によって抱えている不安が異なることをふまえて、その不安を解消できるような取り組みの実施が必要と思われます。

問35 あなたは、老人ホームなどの福祉施設で生活することに抵抗がありますか。

福祉施設で生活することに対する抵抗感			
	度数	有効パーセント	累積パーセント
抵抗がある	293	18.2	18.2
やや抵抗がある	433	27.0	45.2
あまり抵抗はない	400	24.9	70.1
抵抗はない	234	14.6	84.7
わからない	246	15.3	100.0
合計	1606	100.0	
無回答	30		
	1636		

・福祉施設で生活することに対する抵抗感の有無を質問したところ、有抵抗感層（「抵抗がある」と「やや抵抗がある」の合計）の割合は、4割（45.2%）を超え、無抵抗感層（「抵抗はない」と「あまり抵抗はない」の合計）の割合（39.5%）を上回りました。前回調査では、有抵抗感層の割合は43.4%、無抵抗感層の割合は38.1%でしたので、大きな変化は見られませんでした。



P<.05

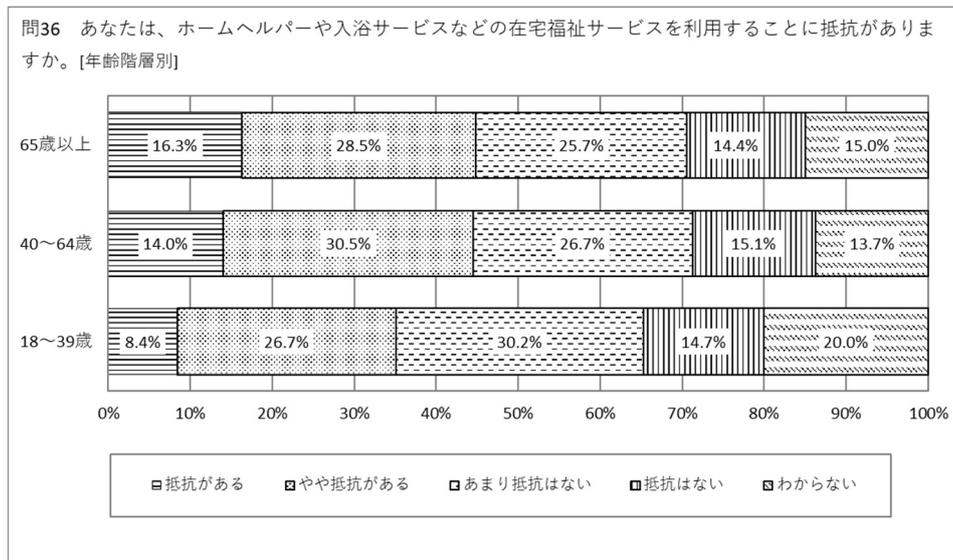
・年齢階層別にみると、壮年層と高齢層では、福祉施設を利用することに抵抗がある人（「抵抗がある」と「やや抵抗がある」との合計）の方が、抵抗がない人（「あまり抵抗はない」と「抵抗はない」と合計）よりも多い結果となりました。抵抗がある人は壮年層で44.1%、高齢層で48.6%、抵抗がない人は壮年層で41.5%、高齢層で36.7%です。

しかし、青年層では抵抗がない人（44.0%）の方が、抵抗がある人（36.0%）よりも多くなっています。青年層では「わからない」との回答も2割（20.0%）を占めています。高齢期の生活が身近でない青年層にとって、老人ホームなどの福祉施設で生活することはイメージしづらいのかもしれない。

問 36 あなたは、ホームヘルパーや入浴サービスなどの在宅福祉サービスを利用することに抵抗がありますか。

在宅福祉サービスの利用に対する抵抗感			
	度数	有効パーセント	累積パーセント
抵抗がある	231	14.4	14.4
やや抵抗がある	465	29.0	43.4
あまり抵抗はない	429	26.7	70.1
抵抗はない	236	14.7	84.8
わからない	244	15.2	100.0
合計	1605	100.0	
無回答	31		
	1636		

・在宅福祉サービスを利用することに対する抵抗感の有無を質問したところ、有抵抗感層の割合は 4 割(43.4%)、無抵抗感層の割合も 4 割(41.4%)とほぼ変わらない結果になりました。前回調査では、有抵抗感層の割合は 41.0%、無抵抗感層の割合は 41.4%でしたので、大きな変化は見られませんでした。



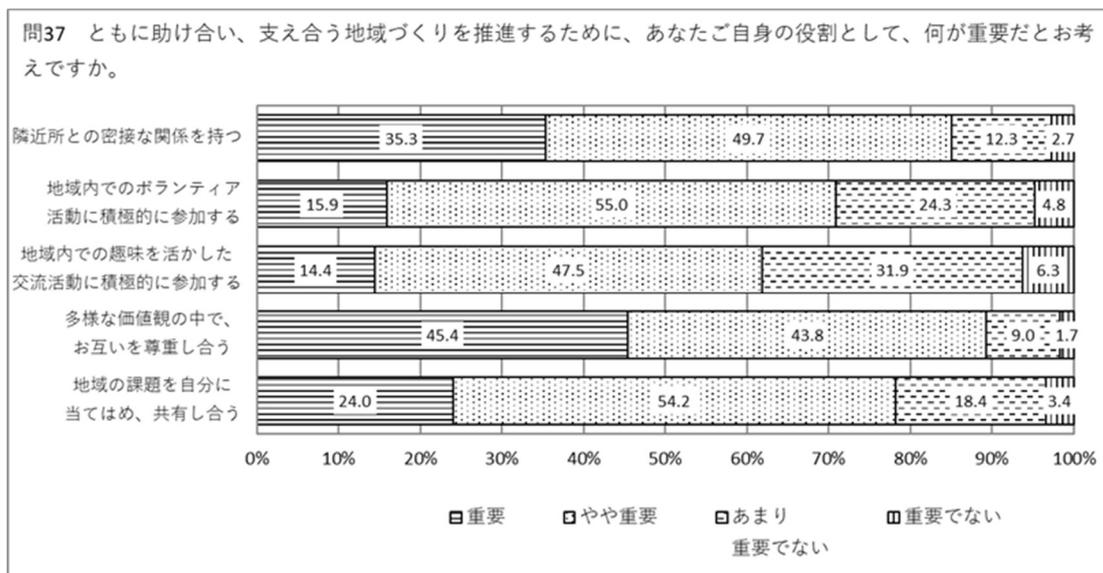
n.s

・年齢階層別にみると、壮年層と高齢層では、在宅福祉サービスを利用することについて抵抗がある人と(「抵抗がある」と「やや抵抗がある」との合計)、抵抗がない人(「あまり抵抗はない」と「抵抗はない」との合計)の割合は、いずれも約 4 割となっています。抵抗がある人は壮年層で 44.5%、高齢層で 44.8%、抵抗がない人は壮年層で 42.8%、高齢層で 40.1%です。

一方、青年層では、抵抗がない人が 44.9%、抵抗がある人が 35.1%と抵抗を感じない人が多くなっています。青年層では「わからない」との回答も2割(20.0%)を占めています。問 35 と同様に、青年層は、在宅福祉サービスを利用するというを身近に感じていないのかもしれませんが。

問 37 とともに助け合い、支え合う地域づくりを推進するために、あなたご自身の役割として、何が重要だとお考えですか。(各項目○はひとつ)

		地域づくりにおいて重要な自分の役割					
		重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	合計	無回答
隣近所との密接な関係を持つ	度数	538	757	188	41	1524	112
	%	35.3	49.7	12.3	2.7	100.0	
地域内でのボランティア活動に積極的に参加する	度数	233	806	356	71	1466	170
	%	15.9	55.0	24.3	4.8	100.0	
地域内での趣味を活かした交流活動に積極的に参加する	度数	211	698	469	92	1470	166
	%	14.4	47.5	31.9	6.3	100.0	
多様な価値観の中でお互いを尊重し合う	度数	680	656	135	26	1497	139
	%	45.4	43.8	9.0	1.7	100.0	
地域の課題を自分に当てはめ、共有し合う	度数	354	799	271	50	1474	162
	%	24.0	54.2	18.4	3.4	100.0	

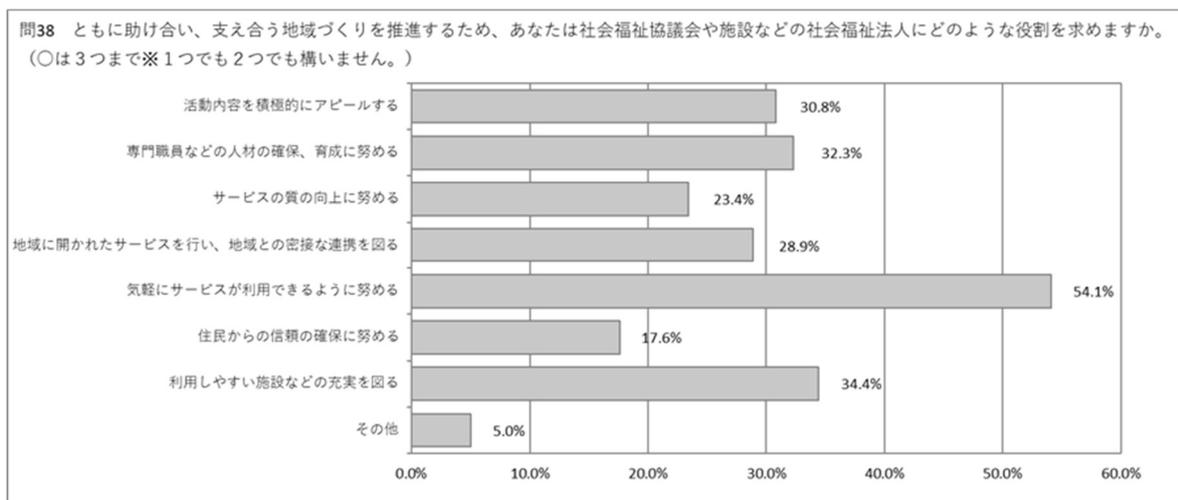


・「ともに助け合い、支え合う地域づくりを推進するため」に自分自身の役割として、回答者が必要(「重要」と「やや重要」の合計)と考えている割合を確認すると、「多様な価値観の中でお互いを尊重し合う」(89.2%)と「隣近所との密接な関係を持つ」(85.0%)が、8割を超えています。また、「地域の課題を自分に当てはめ、共有し合う」(78.2%)、「地域内でのボランティア活動に積極的に参加する」(70.9%)、「地域内での趣味を活かした交流活動に積極的に参加する」(61.9%)も重要だと考えている人の割合が高くなっています。

・前回調査では、「隣近所との密接な関係を持つ」(計 81.6%)がもっとも高い割合となり、次いで「多様な価値観の中でお互いを尊重し合う」(計 77.4%)でしたので、傾向にやや変化が認められます。

問 38 ともに助け合い、支え合う地域づくりを推進するため、あなたは社会福祉協議会や施設などの社会福祉法人にどのような役割を求めますか。(〇は3つまで※1つでも2つでも構いません。)

地域づくりにおいて社会福祉法人に求める役割		
活動内容を積極的にアピールする	度数	476
	%	30.8
専門職員などの人材の確保、育成に努める	度数	495
	%	32.3
サービスの質の向上に努める	度数	359
	%	23.4
地域に開かれたサービスを行い、地域との密接な連携を図る	度数	442
	%	28.9
気軽にサービスが利用できるように努める	度数	828
	%	54.1
住民からの信頼の確保に努める	度数	270
	%	17.6
利用しやすい施設などの充実を図る	度数	527
	%	34.4
その他	度数	76
	%	5.0

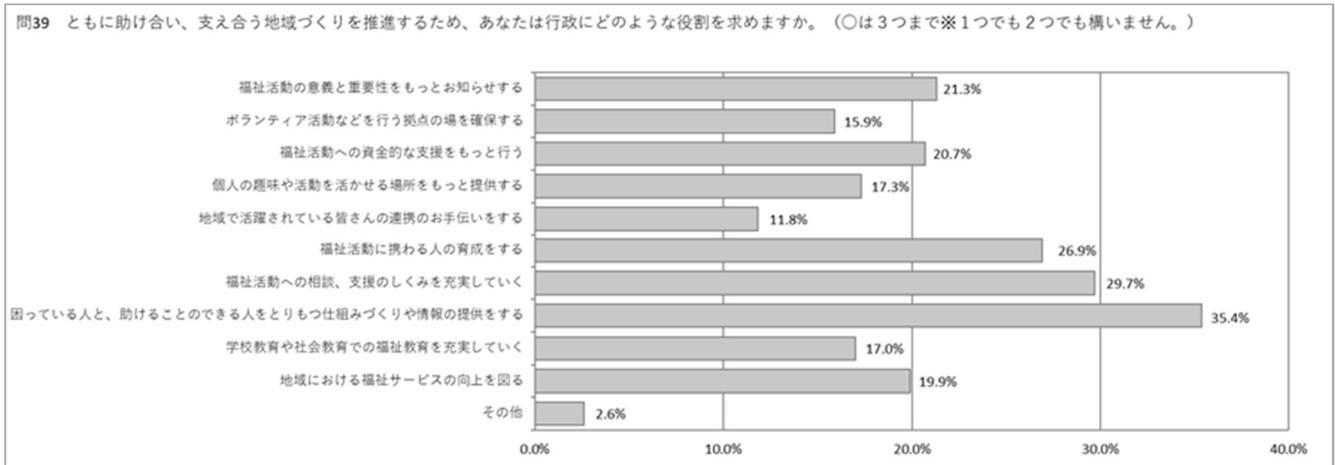


・「ともに助け合い、支え合う地域づくりを推進するため」に社会福祉法人に対して求める役割については、「気軽にサービスが利用できるように努める」(54.1%)が最も多くなり、次いで、「利用しやすい施設などの充実を図る」(34.4%)、「専門職員などの人材の確保、育成に努める」(32.3%)、「活動内容を積極的にアピールする」(30.8%)、「地域に開かれたサービスを行い、地域との密接な連携を図る」(28.9%)などとなりました。

前回調査と比較しても、その順位、割合ともに大きな変化はありませんでした。

問 39 ともに助け合い、支え合う地域づくりを推進するため、あなたは行政にどのような役割を求めますか。(〇は3つまで※1つでも2つでも構いません。)

地域づくりにおいて行政に求める役割		
福祉活動の意義と重要性をもっとお知らせする	度数	326
	%	21.3
ボランティア活動などを行う拠点の場を確保する	度数	241
	%	15.9
福祉活動への資金的な支援をもっと行う	度数	314
	%	20.7
個人の趣味や活動を活かせる場所をもっと提供する	度数	262
	%	17.3
地域で活躍されている皆さんの連携をお手伝いする	度数	178
	%	11.8
福祉活動に携わる人の育成をする	度数	407
	%	26.9
福祉活動への相談、支援のしくみを充実していく	度数	450
	%	29.7
困っている人と、助けることのできる人をとりもつ仕組みづくりや情報の提供をする	度数	536
	%	35.4
学校教育や社会教育での福祉教育を充実していく	度数	257
	%	17.0
地域における福祉サービスの向上を図る	度数	302
	%	19.9
その他	度数	40
	%	2.6



・「ともに助け合い、支え合う地域づくりを推進するため」に行政に対して求める役割については、「困っている人と、助けることのできる人をとりもつ仕組みづくりや情報の提供をする」(35.4%)が最も多くなり、次いで、「福祉活動への相談、支援のしくみを充実していく」(29.7%)、「福祉活動に携わる人を育成する」(26.9%)などとなりました。

これらの傾向は、過去の調査結果と大きな変化はありませんでした。

問 40 最後にいかがいたします。何でも結構です。ともに助け合い、支え合う地域づくりについて、ご提言がございましたら自由にご記入ください。

※省略